

2023 年度

授業計画

作業療法学科

長崎医療技術専門学校

本書の利用にあたって

本書は、受講者が学習の流れを理解し、円滑に講義を受けられるようになることを目的としています。分野は「基礎」「専門基礎」「専門」に分かれ、さらにそれぞれの分野の「ねらい」「科目」「内容（キーワード）」を掲載しています。開講される科目について各講義の概要や講師からの要望、各回講義内容、使用するテキストならび参考書、単位取得にあたっての評価の方法を記載していますので受講前に十分に熟読し、学習の計画に役立ててください。

また、本書は本校の教育内容を広く社会に公開するものです。受講者が将来さらなる進学や編入学の際に、本校で受けた講義の内容を証明するものとして利用できる可能性もありますので、今後も大切に保管してください。

本書が受講者の自主的な学習に役立つものになるとともに、本校にとっても教育活動を点検・評価し、良き学校教育へつながるものとして大いに活用されることを望みます。

教務委員会

作業療法学科

<1 年生 前期科目>

○行動科学

○医療倫理学

○物理学

○研究方法論

○医学英語

○文章表現法

○コミュニケーション学

○スポーツ・レクレーション演習

○医療基礎 I

○解剖学 I

○生理学 I

○生理学 II

○運動学 I

○社会福祉論

○リハビリテーション概論

○作業療法概論 I

○身体機能評価学 I

○精神機能評価学 I

○日常生活活動 I

<1 年生 後期科目>

○医療基礎 II

○解剖学 II

○生理学 III

○運動学 II

○人間発達学

○臨床心理学

○病理学概論

○内科学 I

○整形外科 I

○神経内科学 I

○精神医学総論

○小児科学

○外科学

○脳神経外科学

○基礎作業学 I

○作業療法概論 II

○身体機能評価学 II

○精神機能評価学 II

○日常生活活動 II

○臨床実習 I

<2 年生 前期科目>

○解剖学 III

○解剖学演習

○運動学 III

○内科学 II

○整形外科科学Ⅱ
○神経内科学Ⅱ
○精神医学
○臨床医学Ⅰ
○基礎作業学Ⅱ
○身体機能評価学Ⅲ
○精神機能評価学Ⅲ
○作業療法評価学演習
○身体障害治療学Ⅰ
○身体障害治療学Ⅱ
○精神障害治療学Ⅰ
○発達障害治療学Ⅰ
○高次脳機能障害治療学
○日常生活活動Ⅲ
○地域作業療法学

< 2 年生 後期科目 >

○画像診断学
○臨床医学Ⅱ
○作業療法管理学Ⅰ
○基礎作業学Ⅲ
○身体障害治療学Ⅲ
○義肢装具学
○精神障害治療学Ⅱ
○発達障害治療学Ⅱ

○高齢期治療学
○総合治療論Ⅰ
○総合学習Ⅰ
○職業関連活動
○臨床実習Ⅱ

< 3 年生 科目 >

○作業療法管理学Ⅱ
○総合治療論Ⅱ
○総合学習Ⅱ
○総合学習Ⅲ
○地域リハビリテーション論
○臨床実習Ⅲ
○臨床実習Ⅳ

【教育目標】 授業のねらいと内容

作業療法学科（OT）

分野	ねらい	科 目	内 容（キーワード）
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活	行動科学	人間の行動, ころや適応, 発達や学習の仕組みなど
		医療倫理学	医の倫理を学び, 法的観点から医療と福祉の問題点を考える
		物理学	力学, 熱, 光の性質, 電気に関する物理学の基礎を理解する
		研究方法論	研究に必要なデータ集約と処理方法について学ぶ
		医学英語	医学生物分野のテキストで実践的な英文読解力を身につける
		文章表現法	日本語力を会得し, 表現伝達する能力を養う
		コミュニケーション学	自分の特性を知り, 他人を理解し, コミュニケーションスキルを学習する
		スポーツ・レクリエーション演習	健康増進と維持をしながら, スポーツを通して学生間の交流を深める
		医療基礎Ⅰ・Ⅱ	社会人・医療人として必要な能力を身につける
専門 基礎	人体の構造と機能 および心身の発達	解剖学Ⅰ	正常な人体と構造について理解する
		解剖学Ⅱ	人体諸器官の正常構造に関連する機能を含め理解する
		解剖学Ⅲ	人体の構造や機能について、系統的に理解する。
		解剖学演習	人体諸器官の正常構造と機能を学び, 標本で理解を深める
		生理学Ⅰ	循環, 呼吸などのメカニズムを理解する
		生理学Ⅱ	運動制御の神経学的基礎や感覚機能のメカニズムを理解する
		生理学Ⅲ	代謝, ホルモン, 自律神経などのメカニズムを理解する
		運動学Ⅰ	人体の基本構造と運動の仕組みを理解する
		運動学Ⅱ	四肢, 体幹の運動学について演習を通し理解する
		運動学Ⅲ	運動・動作の観察・測定・分析の初歩的手段を体験学習する
		人間発達学	ヒトの成長について各段階の発達の概要を理解する
		臨床心理学	心身障害者との接し方, 臨床心理の歴史, 心理面接や心理テスト
	疾病と障害の成り 立ち及び回復過程 の促進	病理学概論	感染や先天異常, 代謝や循環障害, 炎症など疾患の成り立ち
		内科学Ⅰ	臓器別及び系統的疾患の病態, 症候, 診療について学ぶ
		内科学Ⅱ	消化器及び系統疾患の病態, 症候, 診療を理解する
		整形外科Ⅰ	骨・関節の疾患と治療法を学ぶ
		整形外科Ⅱ	整形外科疾患の診断, 治療, リハビリなどを学ぶ
		神経内科学Ⅰ	脳神経の機能と障害を知り, その所見を理解する
		神経内科学Ⅱ	脳血管疾患, 感染性疾患等を学ぶ
		精神医学総論	ひとの精神機能と各種精神疾患の特徴や治療法を理解する
		精神医学	各種精神疾患の特徴や治療法を理解する
		小児科学	成長と発達, 栄養, 小児保護, 小児の疾患について理解する
		外科学	外科の歴史と特徴, 無菌法, 損傷, 腫瘍, 輸血, 臓器移植等を知る
		脳神経外科学	神経系の臨床解剖, 頭蓋内圧亢進, 脳血管障害, 脳腫瘍, 頭部外傷
		画像診断学	放射線の種類と性質, 人体への影響, 治療法について理解する
		臨床医学Ⅰ	救急症候の対応や皮膚科の疾患などを学ぶ
		臨床医学Ⅱ	栄養学や薬理学, 泌尿器領域の疾患などを学ぶ
	保健医療福祉とリハ	社会福祉論	社会福祉の考え方や歴史, 社会福祉技術の実践について理解する

	リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	目的や歴史,他職種の役割, 社会保障制度について学ぶ
		地域リハビリテーション論	地域で支援する作業療法や理学療法の実践を学ぶ
専門	基礎作業療法学	基礎作業学Ⅰ	作業に関する基礎知識. 作業活動を通して多面的に分析する力
		基礎作業学Ⅱ	作業分析,指導法を習得し治療効果について学ぶ
		基礎作業学Ⅲ	作業分析,統計的解析の基礎. 客観的側面からの測定と分析
		作業療法概論Ⅰ	作業療法の定義や歴史,役割や方法を理解し基本姿勢を学ぶ
		作業療法概論Ⅱ	作業療法の意味や役割について学び、作業療法を具体的に理解する
	作業療法管理学	作業療法管理学Ⅰ	作業療法に関わる組織,法律,マネジメントなどを学ぶ
		作業療法管理学Ⅱ	作業療法に関わる組織管理などを臨床現場の実践例を学ぶ
	作業療法評価学	身体機能評価学Ⅰ	評価とは何か、評価の視点と基礎的な評価法を学ぶ
		身体機能評価学Ⅱ	作業療法で扱う各種身体機能評価を理解し、その方法を身につける
		身体機能評価学Ⅲ	身体機能の各検査の目的、方法を身につけ、選択できるようにする
		精神機能評価学Ⅰ	評価とは何か、対象者を理解する視点を学ぶ
		精神機能評価学Ⅱ	精神領域での基本的な評価法を学ぶ
		精神機能評価学Ⅲ	精神領域での面接や各評価を実施できるようにする
		作業療法評価学演習	身体機能評価、精神機能評価の対象者への実施を学ぶ
	作業治療学	身体障害治療学Ⅰ	身体障害作業療法の理論的アプローチの基礎を理解する
		身体障害治療学Ⅱ	内部疾患の特性に応じた知識,技術を理解し習得する
		身体障害治療学Ⅲ	身体障害の特性に応じた知識,技術を理解し習得する
		義肢装具学	義手、装具に対する知識を学び,製作体験を通して理解を深める
		精神障害治療学Ⅰ	精神領域での目的、治療構造、理論について学ぶ
		精神障害治療学Ⅱ	統合失調症や気分障害など精神障害の作業療法を理解する
		発達障害治療学Ⅰ	発達障害児や学習障害児などへの作業療法について理解する
		発達障害治療学Ⅱ	脳性麻痺や重度心身障害児への作業療法について理解する
		高齢期治療学	高齢期の障害や認知症に対する作業療法について理解する
		高次脳機能障害治療学	高次脳機能の評価と作業療法について理解する
		日常生活活動Ⅰ	概念,基本動作,複合動作,評価について学ぶ
		日常生活活動Ⅱ	各動作について深く理解し2年次の専門的学習につなげる
		日常生活活動Ⅲ	疾患の特徴を理解し,評価や訓練,指導法を学ぶ
		総合治療論Ⅰ	2年臨床実習に向けて必要な具体的な専門知識や技術を学ぶ
		総合治療論Ⅱ	3年生の臨床実習で必要な具体的な専門知識や技術を学ぶ
		総合学習Ⅰ	臨床実習への準備段階として抄読や国家試験対策学習を行う
		総合学習Ⅱ	国家試験で必要な専門基礎知識,専門知識を繰り返し学ぶ
		総合学習Ⅲ	国家試験で必要な専門基礎知識,専門知識を繰り返し学ぶ
	地域作業療法学	地域作業療法学	歴史と流れ,制度,地域でのケアマネジメントを事例から理解する
		職業関連活動	職業的リハビリテーションと作業療法士の関りについて理解する
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	臨床現場の見学を通してセラピストの役割等を理解する
		臨床実習Ⅱ	評価実習として知識・技術を対象者に実践・応用する力を習得する
		臨床実習Ⅲ	診療チームに参加し,職業的な知識,思考法,技能,態度の基本を学ぶ
		臨床実習Ⅳ	訪問・通所リハビリテーションなどの通して、地域での活動を学ぶ

その他（正規科目外）

学科	科 目	内 容
PT・OT	国試対策	国家試験に向けた学習の場とする
PT・OT	実習対策	実習対策として講義を受講したりグループを組み課題を挙げて学習する
PT・OT	班別学習	国家試験に向けて班別で学習活動を行う
PT・OT	個人課題学習	実習対策として個人で課題を決めて学習に取り組む場とする

作業療法学科 1 年生 前期

授業科目	行動科学					
担当者	長尾 博		所 属			
実務経験者の概要	実務経験(無) 1978 年から現在まで 43 年間さまざまな大学で「心理学」を教える					
学科名	理学療法学科	学 年	1	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	現在では心理学は心理学といわず、科学としての行動科学という。行動科学のさまざまな分野を概説し、行動科学の広さを知ってもらいたい。
到達目標	血液型で性格がわかる、心理学は読心術、心理学者は皆カウンセラーという誤解をとき、客観的な科学としての行動科学を学ぶ。
学生への要望	想定した心理学と大きく異なる行動科学を理解し、少しでも患者さんの行動を客観的にとらえられることを期待している。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	心理学の歴史（心理学は他の学問より新しい）	長尾 博
第 2 回	講義	心理学は科学になるか	長尾 博
第 3 回	講義	感覚と知覚（錯覚、幻覚、UFO をみたことの解釈）	長尾 博
第 4 回	講義	認知と思考（東大生はなぜノーベル賞がとれないか）	長尾 博
第 5 回	講義	生理の心理学（心と身体は 1 つなのか）	長尾 博
第 6 回	講義	学習の心理学（模倣は学習の基本）	長尾 博
第 7 回	講義	学習の心理学（記憶はイメージ、失恋は忘却しやすい）	長尾 博
第 8 回	講義	発達心理学（3 つ子の魂は 100 まで）	長尾 博
第 9 回	講義	発達心理学（ヒトは熟して死んでいく）	長尾 博
第 1 0 回	講義	社会心理学 1（1 対 1 の対人関係とは）	長尾 博
第 1 1 回	講義	社会心理学 2（3 人以上の人間関係、トラブルの原因）	長尾 博
第 1 2 回	講義	パーソナリティの心理学（ヒトの性格は明確にはわからない）	長尾 博
第 1 3 回	講義	犯罪心理学（日本にはない学問としての心理学、長崎と犯罪の頻度）	長尾 博
第 1 4 回	講義	臨床心理学（心理学の学問としての水準）	長尾 博
第 1 5 回		まとめ	長尾 博

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 8 0 % レポート課題（授業態度含む）2 0 %
------------	--------------------------------

<教科書および参考書>

教科書	心理学-心と行動の科学-（資料） 長尾 博
参考資料	

授業科目	医療倫理学					
担当者	福岡龍馬		所 属	弁護士法人ふくざき法律事務所		
実務経験者の概要	実務経験(無)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	医療の世界における「医の倫理」の歴史を確認し、その上に発展してきたインフォームド・コンセントに関する知識や認識を深め、その背景をなす患者等の自己決定権の意味するもの、日本国憲法上の自己決定権の位置付け等を学び、その他密接に関連する現代的テーマとしての「尊厳死」「安楽死」「臓器移植」「生殖補助医療」等について議論し検討する。
到達目標	医療従事者が備えるべき、医療の分野における法的な知識を習得すること。
学生への要望	医療や福祉の領域における患者や高齢者・障害者の人権について、学問的に論議されている内容や現場で実践されている内容等に関する認識や知識を深めて欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	医学の進歩に追いつかない法秩序（例えば、人工妊娠中絶と生殖補助医療）	福岡龍馬
第 2 回	講義	歴史からみた“医の倫理”①	福岡龍馬
第 3 回	講義	歴史からみた“医の倫理”②	福岡龍馬
第 4 回	講義	日本国憲法の下における医療と福祉	福岡龍馬
第 5 回	講義	インフォームド・コンセント①	福岡龍馬
第 6 回	講義	インフォームド・コンセント②	福岡龍馬
第 7 回	講義	インフォームド・コンセント③	福岡龍馬
第 8 回	講義	インフォームド・コンセント④	福岡龍馬
第 9 回	講義	看護師の業務とその責任	福岡龍馬
第 1 0 回	講義	介護・介助に関する事故（医療事故における医療者の責任）	福岡龍馬
第 1 1 回	講義	診療記録の医療訴訟上の証明力（診療記録の訴訟上での取り扱い方）	福岡龍馬
第 1 2 回	講義	介護サービスとインフォームド・コンセント	福岡龍馬
第 1 3 回	講義	脳死と臓器移植法	福岡龍馬
第 1 4 回	講義	終末期医療（尊厳死と安楽死）	福岡龍馬
第 1 5 回	講義	まとめ	福岡龍馬

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0 %
------------	----------------------

<教科書および参考書>

教科書	福岡博孝・他	医療の倫理	福岡法律事務所
参考資料			

授業科目	物理学					
担当者	岩永 浩		所 属			
実務経験者 の概要	実務経験(無)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	物理学は、ものの見方・考え方を学ぶ学問であるということを主眼にして、講義をすすめていきます。身近に起こる何気ない現象も、物理的な見方をすることで、新たな感動が生まれることを体験して欲しいと思います。講義の内容は力学、熱、光の性質、電気に関するもので、身の回りの現象を取り上げ、なるべく演示実験も行いますので理解を深めてください。
到達目標	医療機関で見かける電子体温計、耳式体温計、血圧計、ファイバースコープ、CT、MRIなどの原理を理解できるようになる。
学生への要望	高校で物理を学んでいない人が多いのかと思われますので、基礎からわかりやすく説明します。講義内容を書くためのノートを用意してください。物理は積み重ねが必要な学問ですので、できればその日のうちに10分でも良いので必ず復習してください。計算や実験結果などのレポートには色鉛筆なども用いて丁寧に書いてください。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	科学・未科学・ニセ科学について例を挙げてパーポイントで説明する。たとえばマイナスイオン、磁気ネックレス。トルマリン効果、ヒップエレキバン、水素水などがよく知られているがこれらは物理的に間違っているのでニセ科学だと思われる。	岩永 浩
第2回	講義	力学①：慣性・作用反作用、力のモーメントの定義とその応用について説明する。特に作用反作用とテコの原理と人体の部位のテコの定義に関連しては詳しく説明する。	岩永 浩
第3回	講義	力学①：慣性・作用反作用、力のモーメントの定義とその応用について説明する。特に作用反作用とテコの原理と人体の部位のテコの定義に関連しては詳しく説明する。	岩永 浩
第4回	講義	光：反射、屈折、分散や全反射による光ファイバーを用いた胃カメラや赤外線発光ダイオードを用いたパルスオキシメーターなどの医療機器への物理的内容について説明する。	岩永 浩
第5回	講義	熱①：物質の状態変化、伝導、対流、放射、膨脹などの熱現象を理解し、応用としての水銀温度計と電子体温計、耳式体温計の原理を理解する。	岩永 浩
第6回	講義	熱②：物質の状態変化、伝導、対流、放射、膨脹などの熱現象を理解し、応用としての水銀温度計と電子体温計、耳式体温計の原理を理解する。	岩永 浩
第7回	講義	電気：電圧、電流、抵抗、電力についての定義。直流の乾電池と家庭	岩永 浩

		に來ている交流電源の違いとその働きについて理解する。赤外線、紫外線、X線など電磁波やC T、MR Iなどの医療機器に用いられている用語とその内容について理解する。講義全体のまとめを行い、試験問題の内容についても解説する。	
第 8 回	講義	まとめ	岩永 浩

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 70% レポート課題20% 受講態度10%
------------	----------------------------

<教科書および参考書>

教科書	配布プリント
参考資料	医療系のための物理 佐藤孝一・他 東京数学社

授業科目	研究方法論					
担当者	林 勇一郎		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	Microsoft Office365 または、Googleworkspace を使用し、ファイル・フォルダの管理、文書作成、レポート作成、表計算、グラフ作成、発表資料作成等、学習に必要な ipad 操作スキルを学習する。さらに、セキュリティと情報モラルの基礎を学習する。
到達目標	・ ipad から利用する Web メールシステムを使用し、学校発行のメールアドレスでの送受信ができる。 ・ ipad 上での文章入力、Windows 上のインターネットブラウザ利用の速やかな操作ができる。 ・ ipad 上におけるファイル管理およびクラウド上の保存域の概念を理解し操作できる。 ・ 文書作成ソフトを使用し、見やすく体裁の整った文書やレポートを作成できる。 ・ 表計算ソフトを使用し、数式や書式設定を応用した表やグラフを作成・操作できる。 ・ プレゼンテーション資料作成ソフトを使用し、簡単な発表用スライドを作成できる。 ・ セキュリティと情報モラルの一般的な事例における、適切な対応／対策を理解し各自の ID、メールアドレスおよびそれぞれのパスワードの管理ができる。 ・ リハビリテーション職として研究に対する必要性を理解し、医療倫理学を学ぶ。 ・ 研究に対する簡単な手順を理解し、文献検索ができる。
学生への要望	様々な授業で使用するデバイス操作の学習となるため、積極的に参加してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	ネットリテラシーについて。Google アプリ利用開始（アドレス／パスワード設定）。学習支援アプリ (One Note など) の利用開始。	林勇一郎
第 2 回	講義	Google アプリの紹介と使用方法	林勇一郎
第 3 回	講義	学習方法① word、OneNote について	林勇一郎
第 4 回	講義	学習方法② teams とクラスルームの作成と使用方法	林勇一郎
第 5 回	講義	セラピストにおける研究に関する基礎知識と医療倫理	林勇一郎
第 6 回	講義	文献検索の方法（Google Scholar を用いた検索）	林勇一郎
第 7 回	講義	研究デザインの種類と特徴	林勇一郎
第 8 回	講義	医療統計法の基礎知識と実際	林勇一郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	提出課題 30 %	演習課題（小テスト） 70 %
------------	-----------	-----------------

<教科書および参考書>

教科書	配布資料
参考資料	

授業科目	医学英語					
担当者	小路 武彦		所 属	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科		
実務経験者の概要	実務経験（有） 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授・解剖学					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	医学生物学分野において、特集記事として記載された短文でまとめた内容をもつ英文のコピーを教科書として用い、実践的な英文読解力を身に付けることを目的とする。毎回異なるトピックスを扱うので医療現場での、最近の話題にも親しんでいただく予定です。
到達目標	辞書を使えば専門的英語が読める。英語で簡単な挨拶が出来る。
学生への要望	予習と復習は、外国語の学習にとって必須である。特に専門用語はある程度暗記していただく必要があります。各トピックスは日常生活でも役立つ内容なので是非興味をもって取り組んで頂きたい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
		具体的には、色々なトピックスをまとめた英文の冊子を配布するので、毎回の授業部分について予習して頂く。また必要に応じて、新聞からの切り抜き（英文）を配布し最新の出来事の英語表現を理解して頂く。辞書類は毎回持参すること。授業中は、指名により文章の一部について音読と日本語訳を個々に行ってもらい、その内容を訂正あるいは補足説明する形式で授業を進める。 更に各トピックスが扱う内容そのものに関しても若干の専門的解説を加える予定である。トピックスとして予定しているものは、・・・ 1.Cloning of Humans,2.The Harm Done by Acid Rain,3.Shin Cancer on the Rise,4.Weight Loss the Healthy Way,5.Carbon Monoxide:A Deadly Poison,6.Photochemical Smog Can Kill,7.The Most Often Asked Questions About Tobacco and Health,8.Urinary Tract Infections Require Attention,9.You Can Avoid Osteoporosis,10.Melatonin,Endocrine Disrupting,11.Contaminants,12.Preventing Birth Defects,13.Organs for transplant,14.Bioweapons,15.Antibiotics,16.Preventing Transmission of STDs,17.Prevention of Cancer,18.Tobacco and Alcohol Use,19.The Theory of Evolution 等といった内容（いずれも S.S,Mader 著の Human Biology から抜粋）である。	
第 1 回	講義	トピックス 1	小路 武彦
第 2 回	講義	トピックス 2	小路 武彦
第 3 回	講義	トピックス 3	小路 武彦
第 4 回	講義	トピックス 4	小路 武彦
第 5 回	講義	トピックス 5	小路 武彦
第 6 回	講義	トピックス 6	小路 武彦
第 7 回	講義	トピックス 7－8	小路 武彦
第 8 回	講義	トピックス 9	小路 武彦
第 9 回	講義	トピックス 10	小路 武彦
第 10 回	講義	トピックス 11－12	小路 武彦

第 1 1 回	講義	トピックス 1 3－1 4	小路 武彦
第 1 2 回	講義	トピックス 1 5－1 6	小路 武彦
第 1 3 回	講義	トピックス 1 7－1 8	小路 武彦
第 1 4 回	講義	トピックス 1 9	小路 武彦
第 1 5 回	講義	まとめ	小路 武彦

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% レポート課題 10%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	英和中辞典（電子辞書でも可） 研究社 講師作成テキスト
参考資料	

授業科目	文章表現法					
担当者	小松 直斗		所 属	長崎玉成高等学校		
実務経験者の概要	実務経験(無)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	「わかりやすい文章を書く」ことは技術である。技術は理論を知り、練習を繰り返すことで身につけることができる。この授業では、学校生活だけでなく社会に出て仕事を始めてからも役に立つ、文章を書く技術を学ぶ。
到達目標	読み手にとって読みやすい文章表現、わかりやすい文章表現を用いて、レポートを書くことができる。
学生への要望	「作文」と「レポート」は別物である。作文に対する苦手意識を捨て、新たな気持ちで授業に挑んでほしい。また、書くための理論のインプットではなく、書くというアウトプットを意識して授業にのぞんでほしい。次回の授業までにその日の授業で使った資料やテキストの該当箇所をもう一度読んで復習しておくこと。課題は必ず提出すること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	オリエンテーション	小松 直斗
第 2 回	講義	文章の基本	小松 直斗
第 3 回	講義	文章を書く前に大切なこと	小松 直斗
第 4 回	講義	文章のルール①	小松 直斗
第 5 回	講義	文章のルール②	小松 直斗
第 6 回	講義	よいレポートの条件①	小松 直斗
第 7 回	講義	よいレポートの条件②	小松 直斗
第 8 回	講義	よいレポートの条件③	小松 直斗
第 9 回	講義	読みやすいレポートの工夫①	小松 直斗
第 1 0 回	講義	読みやすいレポートの工夫②	小松 直斗
第 1 1 回	講義	読みやすいレポートの工夫③	小松 直斗
第 1 2 回	講義	情報の読み取りと文章化	小松 直斗
第 1 3 回	講義	事例報告・症状レポートの書き方	小松 直斗
第 1 4 回	講義	推敲・校正の仕方	小松 直斗
第 1 5 回	講義	まとめ	小松 直斗

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 70% 課題への取り組み 20% 出席態度 10%
------------	--------------------------------

<教科書および参考書>

教科書	高谷 修 PT・OT 学生の文章力を育てる！レポートの書き方 金芳堂
参考資料	

授業科目	コミュニケーション学					
担当者	牧山 美穂・他		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	人と接する際には、まず自分の特性を知ること、他者の対人パターンの在り方を理解することが大切である。その上でコミュニケーションを取る時に必要となる基本的なマナーやコミュニケーションスキルについて学習する。
到達目標	臨床場面で対象者とのコミュニケーションにおいて各種のスキルを想起でき、用いる事ができる。
学生への要望	積極的に学ぶ姿勢を持つ。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	コミュニケーションとは	奥山
第 2 回	講義	自己概念及び自己評価①	牧山
第 3 回	講義	自己概念及び自己評価②	牧山
第 4 回	講義	効果的なコミュニケーションスキル①	牧山
第 5 回	講義	効果的なコミュニケーションスキル②	荒木
第 6 回	講義	社会人のマナーとしてのコミュニケーション①	牧山
第 7 回	講義	社会人のマナーとしてのコミュニケーション②	牧山
第 8 回	講義	臨床で役に立つコミュニケーション	荒木
第 9 回	講義	表現方法①	牧山
第 1 0 回	演習	表現方法②	荒木
第 1 1 回	演習	表現方法③	牧山・荒木
第 1 2 回	演習	ディベート①	奥山
第 1 3 回	演習	ディベート②	奥山
第 1 4 回	演習	ディベート③	奥山
第 1 5 回	講義	まとめ	牧山・荒木・奥山

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% 演習態度(提出物含む) 10%
------------	--------------------------

<教科書および参考書>

教科書	資料配布		
参考資料	澤 俊二	コミュニケーションスキルの磨き方	医歯薬出版
	山口美和	PT・OT のためのコミュニケーション実践ガイド	医学書院

授業科目	スポーツ・レクレーション演習					
担当者	渡邊正之・他		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) 精神分野の病院にて作業療法を行い、主に統合失調症・うつ病・認知症・神経症性障害のリハビリテーションを担当していた。臨床での経験や実務内容疾患の特性などを講義で話していきたい。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	医療・介護分野やスポーツ領域に限らず、健康寿命を延ばすために様々な運動療法が積極的に行われてきている。PT・OT として運動療法指導や地域活動等で活動することが多くなることを見越して集団指導における概念やリスク管理、工夫点などを学んでいく。また、運動を通して学生間の交流や自己の役割を認識し行動することを育む。
到達目標	学生自身の健康増進と維持および演習を通して集団指導における概念やリスク管理、工夫点などの習得。
学生への要望	学生自身の健康増進と維持、学生間の交流を深める目的でもあるため、積極的に活動してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	演習	オリエンテーション	渡邊、森
第 2 回	演習	運動器の機能向上プログラム	渡邊、森
第 3 回	演習	健康増進を目的とした集団指導	渡邊、森
第 4 回	演習	スポーツ現場における集団指導①	渡邊、森
第 5 回	演習	スポーツ現場における集団指導②	渡邊、森
第 6 回	演習	集団レクリエーション①	渡邊、森
第 7 回	演習	集団レクリエーション②	渡邊、森
第 8 回	講義	まとめ	渡邊、森

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 % レポート課題 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	配布資料
参考資料	

授業科目	医療基礎 I					
担当者	牧山美穂		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	作業療法学科	学 年	1	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	学則を学び、「医療」を学ぶ準備をする。社会と関わる心得を学ぶ。
到達目標	医療を学ぶ基礎を身に付ける。挨拶をはじめ、社会性を理解する。
学生への要望	医療に携わる者として求められることはどのようなことがあるのかを考え、理解を深めて欲しい。また、社会の一員として求められるものについても考えを深めて欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	学則、ルールについて	牧山美穂
第 2 回	講義	入学前課題の振り返り①	牧山美穂
第 3 回	講義	入学前課題の振り返り②	牧山美穂
第 4 回	講義	生活安全指導、市民生活・自治振興について	牧山美穂
第 5 回	講義	授業ノートの作り方、メモを取る方法	牧山美穂
第 6 回	講義	テキストやインターネット等からの調べ方、検索方法	牧山美穂
第 7 回	講義	SNS のリスクについて	牧山美穂
第 8 回	講義	科目別学習方法の計画①	牧山美穂
第 9 回	講義	科目別学習方法の計画②	牧山美穂
第 1 0 回	講義	身だしなみについて	牧山美穂
第 1 1 回	講義	地域貢献活動	牧山美穂
第 1 2 回	講義	学習の振り返り①	牧山美穂
第 1 3 回	講義	学習の振り返り②	牧山美穂
第 1 4 回	講義	ゲートキーパー養成講座	牧山美穂
第 1 5 回	講義	消費生活出前講座	牧山美穂

<評価方法>

成績評価・方法・基準	小テスト 50% レポート 課題 40% 授業態度 10%
------------	---

<教科書および参考書>

教科書	中島 雅美 PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート	医歯薬出版
	中島 雅美 PT・OT 基礎から学ぶ生理学ノート	医歯薬出版
参考資料		

授業科目	解剖学Ⅰ					
担当者	林勇一郎・他		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	6 0 時間	

<内 容>

授業の概要	人体諸器官の正常構造を、関連する簡単な機能を含めて肉眼解剖学の立場から解説する。
到達目標	人体の肉眼解剖学的な主要な構造について、適切な用語を用いて具体的に説明できる。
学生への要望	解剖学は医学の最も基礎的な分野であり、専門科目を学ぶ上で不可欠である。先ず、人の身体がどのように組み立てられているのか興味を持って頂きたい。多くの量を学ぶことになるが、日々の積み重ねで克服できるものであり、努力に勝る道はないと考えてほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	解剖学概論、骨学総論①	林・増本
第 2 回	講義	骨格系（上肢帯骨・自由上肢骨）①	林・増本
第 3 回	講義	骨格系（上肢帯骨・自由上肢骨）②	林・増本
第 4 回	講義	骨格系演習①（上肢帯骨・自由上肢骨）	林・増本
第 5 回	演習	骨格系演習②（上肢帯骨・自由上肢骨）	林・増本
第 6 回	演習	骨格系（下肢帯骨・自由下肢骨）①	林・増本
第 7 回	講義	骨格系（下肢帯骨・自由下肢骨）②	林・増本
第 8 回	演習	骨格系演習①（下肢帯骨・自由下肢骨）	林・増本
第 9 回	講義	骨格系演習②（下肢帯骨・自由下肢骨）	林・増本
第 1 0 回	講義	骨格系演習（上下肢まとめ）	林・増本
第 1 1 回	演習	骨格系（脊柱・胸部）	林・増本
第 1 2 回	演習	骨格系演習（脊柱・胸部）	林・増本
第 1 3 回	演習	骨格系（頭蓋）	林・増本
第 1 4 回	講義	骨格系演習（頭蓋）	林・増本
第 1 5 回	講義	骨格系まとめ	林・増本
第 1 6 回	講義	筋学総論	林・増本
第 1 7 回	講義	筋系（上肢帯・上肢）①	林・増本
第 1 8 回	講義	筋系（上肢帯・上肢）②	林・増本
第 1 9 回	講義	筋系（上肢）①	林・増本
第 2 0 回	講義	筋系（上肢）②	林・増本
第 2 1 回	講義	筋系（上肢）③	林・増本
第 2 2 回	講義	筋系（下肢帯・下肢）①	林・増本
第 2 3 回	講義	筋系（下肢帯・下肢）②	林・増本
第 2 4 回	講義	筋系（下肢）①	林・増本
第 2 5 回	講義	筋系（下肢）②	林・増本

第 2 6 回	講義	筋系（下肢）③	林・増本
第 2 7 回	講義	筋系（上下肢まとめ）	林・増本
第 2 8 回	講義	筋系（表情・咀嚼筋）	林・増本
第 2 9 回	講義	筋系（体幹）①	林・増本
第 3 0 回	講義	筋系（体幹）②	林・増本
第 3 1 回	講義	まとめ	林・増本

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 95%	課題提出 5%
------------	----------	---------

<教科書および参考書>

教科書	分冊 解剖学アトラスⅠ・Ⅱ・Ⅲ	平田幸男	文光堂
	ヒューマン・アナトミー・アトラス 2023 (iPad アプリ)		
	PTOT 基礎から学ぶ解剖学ノート	中島雅美	医歯薬出版
参考資料	分担 解剖学 1.2.3	小川鼎三・他	金原書店

授業科目	生理学Ⅰ					
担当者	松本逸郎		所 属	活水女子大学非常勤講師、日本生理学会会員		
実務経験者の概要	実務経験(無) 長崎大学医学部勤務 42 年。最終職階は同大医歯薬総合研究科准教授。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年生	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	人体の個々の臓器は液性因子と神経因子を介して調節され、中枢神経系が統合的に支配調節することでその機能が発揮する。ヒトを取り巻く外的と内的環境は絶え間なく変化するので臓器レベルに止まらず、中枢神経系の各階層でより精度の高い調節をうけ環境の変化に適応し、恒常性が保たれる。本講は生理学Ⅲ（後期開講）と連動して、血液、自律神経、心臓・循環器、呼吸機能の構造と機能を関連づけた生体恒常性の精妙な調節機序を学ぶ。
到達目標	作業療法士および理学療法士として専門的知識・技術を理解できる基礎的学力を身につけること。
学生への要望	講義のプリント（パワーポイントで作成した図）と内蔵機能の概要・ポイントを予め配信するので、予習しておくこと。併せて各々の講義単元ごとに小テスト問題を提示するので、解答を提出すること。分からないことがあれば、講義中でも終了後でも良いので質問すること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	生理学の概要(主な臓器の主要な機能を紹介する)	松本逸郎
第 2 回	講義	血液Ⅰ：血液の構成。赤血球の構造と役割、Hb と酸素の乖離曲線	松本逸郎
第 3 回	講義	血液Ⅱ：白血球、血小板の役割	松本逸郎
第 4 回	講義	血液Ⅲ：リンパ球、骨髄幹細胞	松本逸郎
第 5 回	講義	血液Ⅳ：血漿、血漿蛋白、凝固と線溶、血液型	松本逸郎
第 6 回	講義	循環Ⅰ：固有心血管、特殊心血管、心血管の電気的／機械的特性、神経調節	松本逸郎
第 7 回	講義	循環Ⅱ：細胞膜と膜電位、イオンチャンネル、静止電位、活動電位	松本逸郎
第 8 回	講義	循環Ⅲ：心周期、心電図、心機図（心音、脈波、心内圧曲線）	松本逸郎
第 9 回	講義	循環Ⅳ：血管の種類と構造の特徴、肺循環と体循環、微小循環	松本逸郎
第 1 0 回	講義	循環Ⅳ：血圧の神経調節と液性調節、中枢神経系による循環調節	松本逸郎
第 1 1 回	講義	呼吸Ⅰ：肺と気道の構造と働き	松本逸郎
第 1 2 回	講義	呼吸Ⅱ：呼吸運動とその調節	松本逸郎
第 1 3 回	講義	呼吸Ⅲ：ガス交換、閉塞性疾患と拘束性疾患	松本逸郎
第 1 4 回	講義	呼吸Ⅳ：ガス（O ₂ と CO ₂ ）の運搬	松本逸郎
第 1 5 回	講義	総括：まとめ	

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% 小テストのレポート課題 10%
------------	--------------------------

<教科書および参考書>

教科書	林正健二	人体の構造と機能(1) 解剖生理学 第 4 版	メディカ出版
参考資料	中島雅美	PTOT 基礎から学ぶ生理学ノート第 2 版	医歯薬出版
	坂井建雄	系統看護学 人体の構造と機能(1) 解剖生理学	医学書院

授業科目	生理学Ⅱ					
担当者	中畑泰和、樽見 航		所 属	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科		
実務経験者の概要	実務経験(有)					
	【講義】 担当者は2名とも、長崎大学医学部生に対して、神経科学に含まれる事象について、そのメカニズムを重要視しながら、細胞レベル、分子レベルの理解を促す講義経験を有している。					
学科名	【実習】 講義経験と同様に、人体を用いた神経、筋の興奮状態の測定や感覚系および中枢を介した反応測定について筋電図測定機器や脳波、脳血流測定機器を用いた臨床に即した指導経験を有している。					
	理学療法学科	学 年	1 年生	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	本講義は、運動制御機構における神経学的基礎についての理解を養うことを主たる目的としている。講義では、神経生物学の基礎事項に始まり、主に運動制御を司る神経メカニズムについて概説する。これに加え、感覚機能や、情動・思考などの高次精神機能を司る神経メカニズムについての知識を習得することで、人間の神経システムの全体像を俯瞰できるようになることを目指す。また、能動学習という学生が自ら学び、調べたことを発表し、理解を深める講義スタイルを導入する。
到達目標	1. 運動機能を制御する神経系の基礎を理解する 2. 理学療法・作業療法士の国家試験合格を目的とした神経メカニズムの基礎知識を獲得する
学生への要望	上記の目標に到達するために、教員から学生への一方通行的な講義だけではなく、相互的対話による学習効率の強化を目指す。このため、学生には自己学習だけではなく、積極的な講義への参加姿勢を求める。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	ニューロンの形態と機能①	樽見 航
第2回	講義	ニューロンの形態と機能②	樽見 航
第3回	講義	中枢神経系①（脊髄）	樽見 航
第4回	講義	中枢神経系②（間脳・脳幹）	樽見 航
第5回	講義	中枢神経系③（小脳・大脳皮質）	樽見 航
第6回	講義	中枢神経系④（大脳辺縁系・大脳基底核）	樽見 航
第7回	講義	末梢神経系（脊髄神経・脳神経）	樽見 航
第8回	講義	筋・骨格系①	中畑泰和
第9回	講義	筋・骨格系②	中畑泰和
第10回	講義	脊髄と神経伝導路①	中畑泰和
第11回	講義	脊髄と神経伝導路②	中畑泰和
第12回	講義	感覚①（体性感覚・内臓感覚）	中畑泰和

第 1 3 回	講義	感覚②（視覚・味覚）	中畑泰和
第 1 4 回	講義	感覚③（聴覚・平衡覚・嗅覚）	中畑泰和
第 1 5 回	講義	まとめ	中畑泰和、樽見 航

<評価方法>

成績評価・方法・基準	1 0 0 点満点で評価する。 定期試験 100%；・筆記試験の得点により評価する。
------------	---

<教科書および参考書>

教科書	林正健二	人体の構造と機能(1) 解剖生理学 第 4 版	メディカ出版
参考資料			

授業科目	運動学Ⅰ					
担当者	林 勇一郎		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法にとっての運動学 (Kinesiology) は、「人間の運動の科学」であり、理学療法士として実務をするために必須の学問である。 人間のからだの構造を学ぶ解剖学、人間のからだの機能を学ぶ生理学、そして、身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることについて学ぶ。
到達目標	・運動学用語を理解し、使用できるようになる。 ・運動力学を理解する ・身体を動かす際の中枢神経の働き（生理）について理解する。 ・身体を動かす際の末梢神経と効果器（筋）の働き（生理）について理解する。
学生への要望	原則的に教科書に沿って進めるので復習を欠かさないこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	運動の捉え方	林 勇一郎
第 2 回	講義	運動力学の基礎①	林 勇一郎
第 3 回	講義	運動力学の基礎②	林 勇一郎
第 4 回	講義	関節の構造と機能	林 勇一郎
第 5 回	講義	骨格筋の構造と機能①	林 勇一郎
第 6 回	講義	骨格筋の構造と機能②	林 勇一郎
第 7 回	講義	末梢神経と自律神経①	林 勇一郎
第 8 回	講義	末梢神経と自律神経②	林 勇一郎
第 9 回	講義	中枢神経系の構造と機能①	林 勇一郎
第 1 0 回	講義	中枢神経系の構造と機能②	林 勇一郎
第 1 1 回	講義	中枢神経系の構造と機能③	林 勇一郎
第 1 2 回	講義	反射の仕組み①	林 勇一郎
第 1 3 回	講義	反射の仕組み②	林 勇一郎
第 1 4 回	講義	立ち直りと平衡感覚	林 勇一郎
第 1 5 回	講義	まとめ	林 勇一郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	中間試験 40% 定期試験 60% レポート課題 0 %
------------	------------------------------

<教科書および参考書>

教科書	中村隆一 基礎運動学 第 6 版補訂 医歯薬出版
参考資料	

授業科目	社会福祉論					
担当者	松尾史江		所 属	合同会社 Three・M ゆめライフ		
実務経験者の概要	実務経験(有) 社会福祉士として老人保健施設及び在宅介護支援センターで相談業務に従事した後、介護保険制度の創設当初から介護支援専門員として居宅介護支援事業所で 10 年超の実務を行う。 2008 年より独立開業、現在も居宅介護支援事業所、訪問看護の事業を営んでいる。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	社会福祉の基礎的な知識を学び、日本における高齢者福祉の課題をピックアップしつつ、我が国と諸外国の福祉の違いについて考える。以下のことを学習のねらいとする。1)日本における福祉の歴史と現状を把握する。2)社会福祉の概念と制度について理解する。3)地域包括ケアシステムと多職種連携の在り方を学ぶ。4)地域を支える社会資源を知る。5)今後の社会福祉の認知症ケアの課題と展望を考察する。
到達目標	実践の現場でケアチームとしてリハビリテーションを行うことができるセラピストになる。
学生への要望	セラピストとして専門的知識や技能は重要であるが、実際の現場で「医療・介護の連携」も視野に入れて活動できる視点も必須である。社会福祉の理念と施策を学ぶと同時に、セラピストとして利用者様とご家族、地域に対してどう関わっていけるかを考察してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	社会福祉の理念	松尾史江
第2回	講義	社会福祉の歴史的展開	松尾史江
第3回	講義	福祉職に求められる専門性	松尾史江
第4回	講義	障害者と高齢者虐待	松尾史江
第5回	講義	諸外国における福祉の考え方	松尾史江
第6回	講義	日本の生活保護制度	松尾史江
第7回	講義	介護保険制度について	松尾史江
第8回	講義	成年後見制度とは	松尾史江
第9回	講義	人権と権利の擁護	松尾史江
第10回	講義	「ドキュメンタリー映画」前半	松尾史江
第11回	講義	「ドキュメンタリー映画」後半	松尾史江
第12回	講義	多職種連携とケアマネジメント	松尾史江
第13回	講義	地域包括ケアシステム	松尾史江
第14回	講義	全体まとめ	松尾史江
第15回	試験	まとめ	

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験100% レポート課題0%
------------	-------------------

<教科書および参考書>

教科書	社会福祉の動向編集 社会福祉の動向 2022 中央法規出版
参考資料	日本ケアマネジメント学会編集 ケアマネジメント辞典 中央法規出版

授業科目	リハビリテーション概論					
担当者	韋 傳春・他		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) 臨床現場にて高齢者医療から整形外科、福祉分野を経験。その幅広い経験から臨床とつながる講義を実施する。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	障害のある方に寄り添って、その方々を支え、その方々一人ひとりの力となる仕事に就く医療従事者の一員＝リハビリテーションに携わる専門職を目指すものとして、「健康」と「障害」について理解する。個人や社会の障害に対する考え方の変遷、社会保障体制の変化や、チーム医療としての各専門職との連携について学ぶ。
到達目標	リハビリテーション(rehabilitation)を正しく理解する。正しい知識をもって、リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。
学生への要望	講義の前に教科書を読んで予習しておいてください。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	リハビリテーションの意味と定義	奥山由美子
第 2 回	講義	リハビリテーションの歴史	奥山由美子
第 3 回	講義	リハビリテーション 障害と障害者の歴史	奥山由美子
第 4 回	講義	障害の捉え方 (ICIDH から ICF へ)	奥山由美子
第 5 回	講義	リハビリテーションとチーム医療①	韋 傳春
第 6 回	講義	リハビリテーションとチーム医療②	韋 傳春
第 7 回	講義	活動とは①	韋・奥山
第 8 回	講義	活動とは②	韋・奥山
第 9 回	講義	リハビリテーションを支える社会保障制度①	奥山由美子
第 1 0 回	講義	リハビリテーションを支える社会保障制度②	奥山由美子
第 1 1 回	講義	リハビリテーション工学①	韋 傳春
第 1 2 回	講義	リハビリテーション工学②	韋 傳春
第 1 3 回	講義	栄養とリハビリテーション①	韋 傳春
第 1 4 回	講義	栄養とリハビリテーション②	韋 傳春
第 1 5 回	講義	まとめ	韋・奥山

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 %
------------	--------------

<教科書および参考書>

教科書	川手 信行 はじめての講義 リハビリテーション概論のいろは	南江堂
参考資料		

授業科目	作業療法概論Ⅰ					
担当者	久毛 希、他		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) 回復期リハビリテーション病院、介護老人保健施設にて作業療法士として臨床を経験。主に中枢疾患、高齢期疾患のリハビリテーションを担当する。回復期、維持期の実務経験から作業療法の特性について広い視野での講義を展開する。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	作業療法についての概要を理解し、作業療法士という専門職としての基本的姿勢を身に着ける。
到達目標	作業療法の誕生・歴史・現状などを把握し実際に施設見学を行い、興味を持つことが出来る
学生への要望	わからない言葉(用語)は、事前に調べるなど、積極的に理解する努力を行って欲しい。人と関わる職種なので、人に対する関心を持って取り組んで欲しい

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	作業療法の活動の場	渡邊
第 2 回	講義	作業療法とは①	久毛
第 3 回	講義	作業療法とは②	久毛
第 4 回	講義	作業療法の歴史(日本、世界)	渡邊
第 5 回	講義	作業療法の対象と実際①(身体)	久毛
第 6 回	講義	作業療法の対象と実際②(精神)	渡邊
第 7 回	講義	作業療法の対象と実際③(老年、発達)	久毛
第 8 回	講義	作業療法過程	渡邊
第 9 回	講義	施設見学の目的・目標、見学にあたっての心得	久毛・渡邊
第 10 回	演習	見学施設の概要	久毛・渡邊
第 11 回	演習	施設見学	久毛・渡邊
第 12 回	演習	施設見学	久毛・渡邊
第 13 回	演習	施設見学のまとめと発表①	久毛・渡邊
第 14 回	演習	施設見学のまとめと発表②	久毛・渡邊
第 15 回		まとめ	久毛・渡邊

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% レポート課題 20%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	日本 OT 協会 作業療法学全書改訂第 3 版作業療法概論 協同医書出版
参考資料	長崎重信 OT 学ゴールドマスターテキスト 作業療法概論(改訂第 2 版) メジカルビュー社

授業科目	身体機能評価学Ⅰ					
担当者	福島 浩満		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) 急性期クリニックと回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。主に脳血管疾患と整形疾患患者への評価・治療の経験をもとに講義を実施する。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	評価の意味や必要性を学ぶ。対象者（ひと）に対する教養を養い、観察する視点を学ぶ。
到達目標	評価の必要性、および基本姿勢を身につける。
学生への要望	対象者との関わるための必要不可欠な「評価」の第一歩である。積極的に講義や演習に参加し、その都度復習して欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	評価とは 評価の意義と流れ	福島浩満
第 2 回	講義	意識レベル・バイタルサイン	福島浩満
第 3 回	演習	バイタルチェック演習	福島浩満
第 4 回	講義	評価体験①	福島浩満
第 5 回	講義	評価体験②	福島浩満
第 6 回	講義	ADL,QOL、社会生活の評価	福島浩満
第 7 回	講義	まとめ	福島浩満

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題0%
------------	--------------------

<教科書および参考書>

教科書	なし（資料配布）
参考資料	日本 OT 協会 作業療法学全書改訂第 3 版作業療法概論 協同医書出版

授業科目	精神機能評価学Ⅰ					
担当者	渡邊 正之		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) 精神分野の病院にて作業療法を行い、主に統合失調症・うつ病・認知症・神経症性障害のリハビリテーションを担当していた。臨床での経験や実務内容疾患の特性などを講義で話していきたい。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	評価の意味や目的を学ぶ。評価を行う前段階とし、対象者に対する興味や自己理解を深める
到達目標	精神科作業療法の概要を理解し、観察評価の視点を身に付けてほしい
学生への要望	グループワークでは積極的に発言して下さい。また、予習・復習を行い、わからない言葉や単語は調べて理解しておいて下さい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	精神機能とは、ICF の紹介	渡邊正之
第 2 回	講義	人を理解するとは、自己理解を深める	渡邊正之
第 3 回	演習	外観の評価①	渡邊正之
第 4 回	演習	外観の評価②	渡邊正之
第 5 回	講義	評価項目の検討①うつ状態	渡邊正之
第 6 回	講義	評価項目の検討②認知症	渡邊正之
第 7 回	講義	面接評価	渡邊正之
第 8 回	講義	まとめ	渡邊正之

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0 %
------------	----------------------

<教科書および参考書>

教科書	山根 寛 精神障害と作業療法 新版 三輪書店
参考資料	

授業科目	日常生活活動Ⅰ					
担当者	荒木 一博		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) 身体障害領域の医療機関、介護老人保健施設で作業療法士として従事					
学科名	作業療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	対象者の生活に関わる作業療法において、日常生活活動を深く捉え、分析していくことは、治療の原点となるものである。導入として日常生活活動の概念や評価、基本となる活動について学修する。
到達目標	ADL の概念や枠組みを理解する。各動作に関連する福祉機器や生活環境を知り、リハビリテーションにおける ADL 支援を考える。
学生への要望	・身近な日常生活の様々な活動について、興味を持って学んでほしい。 ・演習やグループワークなど主体的に取り組んでほしい。 ・実習室での授業時はユニフォームを着用し、身なりを整えておくこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	作業療法と ADL	荒木一博
第 2 回	講義	ADL の概念と範囲	荒木一博
第 3 回	講義	ADL 指導の概要	荒木一博
第 4 回	講義	ADL の評価①	荒木一博
第 5 回	講義	ADL の評価②	荒木一博
第 6 回	講義	基本動作と支援機器①	荒木一博
第 7 回	講義	基本動作と支援機器②	荒木一博
第 8 回	講義	基本動作と支援機器③	荒木一博
第 9 回	講義	リハビリテーション支援機器①	荒木一博
第 10 回	講義	リハビリテーション支援機器②	荒木一博
第 11 回	講義	リハビリテーション支援機器③	荒木一博
第 12 回	講義	リハビリテーション支援機器④	荒木一博
第 13 回	講義	生活環境を考える①	荒木一博
第 14 回	講義	生活環境を考える②	荒木一博
第 15 回	講義	まとめ	荒木一博

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	長崎重信 OT 学「ゴールド」マスターテキスト 日常生活活動 (ADL)	ジ・カルピュ社
参考資料	伊藤利之 新版 日常生活活動 (ADL) 第 2 版 評価と支援の実際 橋元 隆 日常生活活動 (ADL)	医歯薬出版 神稜文庫

作業療法学科 1 年生 後期

授業科目	医療基礎Ⅱ					
担当者	牧山美穂		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	作業療法学科	学 年	1	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	グループ学習を体験することで、その効果やグループで取り組むことの大切さを学ぶ。 また、臨床実習Ⅰで学習したことをまとめ、作業療法の意味や役割について整理する。
到達目標	学習の不十分さを補うための方法を知り、グループでの学習の効果を体験する。 学習したことをまとめ、発表できるようになる。
学生への要望	前期の学習で不十分なところはしっかり復習して後期に臨んで欲しい。グループ学習の効果を知り、効果的な学習につなげて欲しい。また、調べる、探求することの大切さを理解し、意識して取り組んで欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	前期に学んだ基礎医学領域の復習①	牧山美穂
第 2 回	講義	前期に学んだ基礎医学領域の復習②	牧山美穂
第 3 回	講義	学習の振り返り①	牧山美穂
第 4 回	講義	グループ学習の方法について学ぶ①	牧山美穂
第 5 回	講義	グループ学習の方法について学ぶ②	牧山美穂
第 6 回	演習	グループ学習の方法を体験する	牧山美穂
第 7 回	講義	学習の振り返り②	牧山美穂
第 8 回	演習	臨床実習Ⅰ 準備①	牧山美穂
第 9 回	演習	臨床実習Ⅰ 準備②	牧山美穂
第 10 回	演習	臨床実習での学習報告①	牧山美穂
第 11 回	演習	臨床実習での学習報告②	牧山美穂
第 12 回	講義	学習の振り返り③	牧山美穂
第 13 回	演習	グループで問題の解説に取り組む①	牧山美穂
第 14 回	演習	グループで問題の解説に取り組む②	牧山美穂
第 15 回	講義	学習の振り返り④	牧山美穂

<評価方法>

成績評価・方法・基準	レポート課題 100%
------------	-------------

<教科書および参考書>

教科書	中島 雅美 PT・OT 基礎から学ぶ解剖学ノート	医歯薬出版
	中島 雅美 PT・OT 基礎から学ぶ生理学ノート	医歯薬出版
参考資料		

授業科目	解剖学Ⅱ					
担当者	佐伯和信、村井清人		所 属	長崎大学生命医科学域		
実務経験者の概要	実務経験(無)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	6 0 時間	

<内 容>

授業の概要	解剖学Ⅰの分野に続いて、人体諸器官の正常構造を、関連する簡単な機能を含めて解説する。
到達目標	人体の肉眼解剖学的な主要な構造について、適切な用語を用いて具体的に説明できる。
学生への要望	解剖学の知識は、将来の専門的な事柄を理解するための基礎的な知識となる。先ず人の身体がどのような構造になっているのか興味を持って欲しい。その上で、講義で出てくる解剖学用語を学生諸君自らが考えて理解していく姿勢が望ましい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容		担 当
第 1 回	講義	(1) 脈管学	脈管学総論	佐伯和信
第 2 回	講義		心臓①	佐伯和信
第 3 回	講義		心臓②	佐伯和信
第 4 回	講義		心臓③	佐伯和信
第 5 回	講義		動脈系①	佐伯和信
第 6 回	講義		動脈系②	佐伯和信
第 7 回	講義		動脈系③	佐伯和信
第 8 回	講義		静脈系①	佐伯和信
第 9 回	講義		静脈系②、胎児循環	佐伯和信
第 1 0 回	講義		リンパ系①	佐伯和信
第 1 1 回	講義	(2) 神経学	神経系の概要	村井清人
第 1 2 回	講義		神経系の概要	村井清人
第 1 3 回	講義	(1) 脈管学	リンパ系②	佐伯和信
第 1 4 回	講義	(2) 神経学	脊髄、脊髄神経	佐伯和信
第 1 5 回	講義		脊髄神経	佐伯和信
第 1 6 回	講義		脊髄神経	佐伯和信
第 1 7 回	講義		脊髄神経	佐伯和信
第 1 8 回	講義		感覚器：外皮、嗅覚器	村井清人
第 1 9 回	講義		視覚器	村井清人
第 2 0 回	講義		平衡聴覚器	村井清人
第 2 1 回	講義		脳神経	村井清人
第 2 2 回	講義		脳神経	村井清人
第 2 3 回	講義		脳神経	村井清人
第 2 4 回	講義		自律神経系	村井清人
第 2 5 回	講義		大脳	村井清人

第 2 6 回	講義		大脳	村井清人
第 2 7 回	講義		大脳	村井清人
第 2 8 回	講義		脳幹・小脳	村井清人
第 2 9 回	講義		脳幹・小脳	村井清人
第 3 0 回	講義		脳室系—髄液、脳髄膜、動・静脈	村井清人

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題0%
------------	--------------------

<教科書および参考書>

教科書	分冊 解剖学アトラス I・II・III 平田幸男 文光堂 ヒューマン・アナトミー・アトラス 2021 (iPad アプリ)
参考資料	分担 解剖学 1.2.3 小川鼎三・他 金原書店

授業科目	生理学Ⅲ					
担当者	松本 逸郎		所 属	活水女子大学非常勤講師、日本生理学会会員		
実務経験者の概要	実務経験(無) 作業療法士および理学療法士としての実務は経験ない。 長崎大学医学部勤務 42 年。最終職階は同大医歯薬総合研究科准教授。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	生理学Ⅰに続いて、より高度に調節された機能である消化・吸収、腎臓・体液、酸・塩基平衡、内分泌、免疫系の生理・病態生理について学ぶ。
到達目標	作業療法士および理学療法士としての専門的知識・技術を理解できる基礎的学力を身につけることが出来る。
学生への要望	講義のプリント（パワーポイントで作成した図）と内蔵機能の概要・ポイントを予め配信するので、予習しておくこと。併せて各々の講義单元ごとに小テスト問題を提示するので、解答を提出すること。分からないことがあれば、講義中でも終了後でも良いので質問すること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	消化・吸収Ⅰ：消化管の運動（嚥下、蠕動、排便、下痢、嘔吐）	松本逸郎
第 2 回	講義	消化・吸収Ⅱ：消化と吸収（嚥下、食道、胃、）	松本逸郎
第 3 回	講義	消化・吸収Ⅲ:消化と吸収（小腸、結腸、排便）	松本逸郎
第 4 回	講義	肝・胆・膵：肝臓・胆嚢・膵臓の機能、消化管ホルモンによる調節	松本逸郎
第 5 回	講義	腎臓Ⅰ：ネフロン、糸球体濾過、傍糸球体装置	松本逸郎
第 6 回	講義	腎臓Ⅱ：再吸収と電解質バランス、排尿	松本逸郎
第 7 回	講義	腎臓Ⅲ：クリアランス	松本逸郎
第 8 回	講義	腎臓Ⅳ：血圧調節、ホルモン産生（エリスロポエチン、ビタミン D3）	松本逸郎
第 9 回	講義	酸・塩基平衡：呼吸性酸塩基平衡異常、代謝性酸塩基平衡異常、肺と腎臓の代償作用	松本逸郎
第 1 0 回	講義	内分泌Ⅰ：視床下部－下垂体前葉・後葉－甲状腺	松本逸郎
第 1 1 回	講義	内分泌Ⅱ：視床下部－下垂体－副腎(皮質と髄質)	松本逸郎
第 1 2 回	講義	内分泌Ⅲ：視床下部－下垂体－性腺	松本逸郎
第 1 3 回	講義	内分泌Ⅳ：成長、糖代謝、骨代謝と Ca ²⁺ 代謝	松本逸郎
第 1 4 回	講義	リンパ球と免疫	松本逸郎
第 1 5 回		まとめ	

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% 小テストのレポート課題 10%
------------	--------------------------

<教科書および参考書>

教科書	林正健二 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 第 4 版 メディカ出版
参考資料	中島雅美 PTOT 基礎から学ぶ生理学ノート第 2 版 医歯薬出版
	坂井建雄 系統看護学 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院

授業科目	運動学Ⅱ					
担当者	福島 浩満		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) 急性期クリニックと回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。主に脳血管疾患と整形疾患患者への評価・治療の経験をもとに講義を実施する。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	前期で学んだ内容を踏まえ、四肢と体幹の運動学の講義、演習を通し、より身体の運動に対する知識を深めていく。実際に四肢、体幹の骨・筋・腱の触診ができるようにする。
到達目標	人体の構造を理解し、関節運動がどのようにして発生しているのか、力学的に説明することができる。
学生への要望	前期履修した運動学、解剖学、生理学の内容を復習し、理解しておくこと。演習が行われる回は指定された服装を準備すること。 各学習領域で課題を出す。自ら調べ、考えて作成し、予習・復習に繋げて欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	上肢帯の運動、筋活動	福島浩満
第 2 回	講義	肩関節の運動、筋活動	福島浩満
第 3 回	演習	上肢帯・肩関節の触診	福島浩満
第 4 回	講義	肘関節の運動、筋活動	福島浩満
第 5 回	講義	手関節の運動、筋活動	福島浩満
第 6 回	演習	肘・手関節の触診	福島浩満
第 7 回	講義	下肢帯・股関節の運動、筋活動	福島浩満
第 8 回	講義	膝の運動、筋活動	福島浩満
第 9 回	講義	足関節の運動、筋活動	福島浩満
第 1 0 回	演習	下肢の触診	福島浩満
第 1 1 回	講義	体幹（頸部）の運動、筋活動	福島浩満
第 1 2 回	講義	体幹（胸部・腰部）の運動、筋活動	福島浩満
第 1 3 回	講義	顔面と頭部の運動、筋活動	福島浩満
第 1 4 回	演習	頭部・体幹の触診	福島浩満
第 1 5 回	講義	まとめ	福島浩満

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 8 0 % レポート課題 2 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	中村隆一	基礎運動学 第 6 版補訂	医歯薬出版
参考資料	嶋田智明	筋骨格系のキネシオロジー 原著第 2 版	医歯薬出版

授業科目	人間発達学					
担当者	岡田 雅彦		所 属	社会福祉法人聖家族会 みさかえの園あゆみの家		
実務経験者の概要	実務経験(有) 医療型障害児入所施設 みさかえの園あゆみの家 副施設長 長崎大学非常勤講師（医学部 教育学部） 元長崎大学病院小児科准教授 現在一般小児科、心身障害児者の診療をおこなっている					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	人間の発達を「運動能力」「言語」「社会性」の面から考える
到達目標	乳幼児の発達段階を理解できる。発達遅滞と発達障害について理解できる。
学生への要望	いっしょに「楽しくて身になる」時間をつくりましょう

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	イントロダクション 発達総論	岡田雅彦
第 2 回	講義	発達各論 1 成長、運動、言語、社会性	岡田雅彦
第 3 回	講義	発達各論 2 成長、運動、言語、社会性	岡田雅彦
第 4 回	講義	発達を妨げる因子 疾患	岡田雅彦
第 5 回	講義	発達を妨げる因子 社会・環境因子、医療的ケア	岡田雅彦
第 6 回	講義	発達障害(ADHD、学習障害、自閉症スペクトラム)	岡田雅彦
第 7 回	講義	発達遅滞、発達障害にリハビリテーションは何をしてあげられるか	岡田雅彦
第 8 回	講義	まとめ	岡田雅彦

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% レポート課題 20%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	森岡 周 発達を学ぶ 人間発達学レクチャー 協同医書出版
参考資料	

授業科目	臨床心理学					
担当者	長尾 博		所 属			
実務経験者 の概要	実務経験(無) 1976 年から現在まで 45 年間、精神科病院で非常勤の心理臨床家					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法士・作業療法士として、不適応者の適応へ向けての心理学を特に学ぶ。臨床心理学とは何か、その歴史、心理面接や心理テストの内容について特に詳しく学ぶ。
到達目標	心の病いをもつ患者さんの心理的理解の方法とその対応の基礎を理解する。
学生への要望	自分が患者さんと関わったらと仮定して受講してもらいたい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	臨床心理学とは（未完成な学問。心理学の中心ではない）	長尾 博
第 2 回	講義	臨床心理学の歴史（米大リーグよりも新しい歴史の学問）	長尾 博
第 3 回	講義	さまざまな心の病い①（十人十色）	長尾 博
第 4 回	講義	さまざまな心の病い②（七色仮面）	長尾 博
第 5 回	講義	適応理論と不適応について（長いものに巻かれる適応）	長尾 博
第 6 回	講義	こころの発達について①（3 つ子の魂百まで）	長尾 博
第 7 回	講義	こころの発達について②（思春期・青年期）	長尾 博
第 8 回	講義	こころの発達について③（壮年期の英語 manhood と老年期）	長尾 博
第 9 回	講義	心理テストについて①（なぜ心理テストをするのか）	長尾 博
第 1 0 回	講義	心理テストについて②（心理テストは当たるのか）	長尾 博
第 1 1 回	講義	心理面接の各種技法について①（カウンセリングはアドバイスではない）	長尾 博
第 1 2 回	講義	心理面接の各種技法について②（心の奥を見抜く面接）	長尾 博
第 1 3 回	講義	心理面接の各種技法について③（心を変える面接）	長尾 博
第 1 4 回	講義	まとめⅠ（国家試験に向けて）	長尾 博
第 1 5 回	講義	まとめⅡ（役に立つ仕事とは何か）	長尾 博

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% レポート課題（授業態度を含む）20%
------------	-----------------------------

<教科書および参考書>

教科書	長尾 博 現代臨床心理学講座（資料）
参考資料	

授業科目	病理学概論					
担当者	片瀬 直樹		所 属	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科		
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔病理学分野 助教。口腔病理専門医・指導医、分子病理医（口腔）、細胞診専門歯科医・指導医として長崎大学病院で病理診断業務に従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	病理学は疾患の成り立ちを明らかにする基礎医学の一分野であると同時に患者から採取した細胞や組織の病理診断、術中病理診断、亡くなった患者の死因や治療上の疑問点を検討する病理解剖を担う臨床科の側面ももつ。このように病理学は基礎と臨床の橋渡しの学問として極めて重要である。また病理学の知識は臨床医学を理解するうえでの基礎知識となる。本講義では病理学概論として病理学総論を主体として講義するが、各論の内容も一通り扱う。
到達目標	リハビリテーションの臨床で重要な疾患の概念を簡単な表現で説明できる。
学生への要望	講義に出席する。毎回講義資料を前もって配布するので、予習として熟読してくること。最終評価には含まないが、自主学習の習慣をつけるために各単元の初めに予習テストを行う。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	病理学の概要	片瀬直樹
第 2 回	講義	病気の原因	片瀬直樹
第 3 回	講義	細胞・組織の障害と修復	片瀬直樹
第 4 回	講義	循環障害	片瀬直樹
第 5 回	講義	炎症と免疫①	片瀬直樹
第 6 回	講義	炎症と免疫②	片瀬直樹
第 7 回	講義	感染症	片瀬直樹
第 8 回	講義	代謝異常	片瀬直樹
第 9 回	講義	先天異常、老化と死	片瀬直樹
第 1 0 回	講義	腫瘍①	片瀬直樹
第 1 1 回	講義	腫瘍②	片瀬直樹
第 1 2 回	講義	病理学各論①	片瀬直樹
第 1 3 回	講義	病理学各論②	片瀬直樹
第 1 4 回	講義	病理学各論③	片瀬直樹
第 1 5 回	講義	まとめ	片瀬直樹

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 % レポート課題 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	大橋健一 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 第 5 版 医学書院
参考資料	梶原博毅 標準 PT・OT 専門基礎分野 病理学 第 4 版 医学書院

授業科目	内科学Ⅰ					
担当者	井手 政利		所 属	井手内科クリニック		
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎労災病院、虹ヶ丘病院で内科医として勤務して、現在は井手内科クリニックの院長として診療を行っている。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	内科学は臨床医学の中心となる学問である。また、リハビリテーションの対象となる患者の多くは内科疾患を合併しており、患者評価やリハビリ計画の実践にも内科全般にわたる正しい知識が必要であり、これらの点から内科学は理学療法士・作業療法士にとってきわめて重要な科目である。病態の理解を中心とした生きた知識を身につける必要がある。教科書で足りない部分はプリントで補って授業を進めている。
到達目標	内科疾患について、簡単に表現で説明できる。
学生への要望	高校までの受身の学習と違い、専門学校は自ら学ぶ姿勢がきわめて重要である。内科学は範囲が広く、期末試験前の一夜漬けで期末試験を乗り切るのは困難である。また、内科学の知識は試験が終われば忘れてよい知識ではなく、臨床実習でも、さらにプロの医療職としても欠かせない基本的知識である。日頃の地道な勉強で生きた知識を身につけることが内科学学習の鉄則である。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	感染症総論	井手政利
第 2 回	講義	感染症各論 1：細菌感染症等	井手政利
第 3 回	講義	感染症各論 2：ウイルス感染症等	井手政利
第 4 回	講義	循環器疾患：解剖、生理、症候	井手政利
第 5 回	講義	循環器診断法 その 1	井手政利
第 6 回	講義	循環器診断法 その 2	井手政利
第 7 回	講義	循環器各論 (I)	井手政利
第 8 回	講義	循環器各論 (II)	井手政利
第 9 回	講義	呼吸器総論	井手政利
第 10 回	講義	呼吸器各論 (I)	井手政利
第 11 回	講義	呼吸器各論 (II)	井手政利
第 12 回	講義	アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症 (I)	井手政利
第 13 回	講義	アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症 (II)	井手政利
第 14 回	講義	アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症 (III)	井手政利
第 15 回	講義	まとめ	井手政利

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	前田眞治ほか 標準 PT・OT シリーズ 内科学 第 3 版 医学書院
-----	-------------------------------------

	プリント配布
参考資料	

授業科目	整形外科科学Ⅰ					
担当者	衛藤 正雄		所 属	済生会長崎病院		
実務経験者の概要	実務経験(有) 元長崎大学病院整形外科准教授として、医学生への講義行っていた。本校でも平成 7 年の創立時より、整形外科科学の講義を行っている。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	整形外科科学全般
到達目標	整形外科の基礎を学習・理解すること
学生への要望	授業をよく聞き、大切な個所をチェックする。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	総論 整形外科科学的診断学、整形外科科学的緒療法	衛藤正雄
第 2 回	講義	各論 軟部組織損傷	衛藤正雄
第 3 回	講義	各論 骨関節の損傷総論	衛藤正雄
第 4 回	講義	各論 肩関節および上腕 1	衛藤正雄
第 5 回	講義	各論 肩関節および上腕 2	衛藤正雄
第 6 回	講義	各論 肘関節および前腕	衛藤正雄
第 7 回	講義	各論 手関節と手指	衛藤正雄
第 8 回	講義	各論 股関節および大腿 1	衛藤正雄
第 9 回	講義	各論 股関節および大腿 2	衛藤正雄
第 1 0 回	講義	各論 膝関節および下腿 1	衛藤正雄
第 1 1 回	講義	各論 膝関節および下腿 2	衛藤正雄
第 1 2 回	講義	各論 足関節と足部	衛藤正雄
第 1 3 回	講義	各論 慢性疼痛疾患、スポーツ整形外科、障害者スポーツ	衛藤正雄
第 1 4 回	講義	まとめ	衛藤正雄
第 1 5 回	講義	まとめ	衛藤正雄

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 % レポート課題 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	高橋邦泰 他 整形外科科学テキスト 改訂第 4 版 南江堂
参考資料	

授業科目	神経内科学Ⅰ					
担当者	佐藤 聡・富田逸郎・瀬戸牧子・ 佐藤秀代・一瀬克浩		所 属	長崎北病院		
実務経験者の概要	実務経験(有)長崎北病院で神経内科医師として診療にあたっている。20年にわたり、当校で講義・指導にあたっている。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法士、作業療法士として最低知っておくべき神経内科学の総論的事項の講義を行う。
到達目標	理学療法士、作業療法士の実務に必要な神経内科の知識を習得する。
学生への要望	授業を単に聞くのではなく、重要な点はノート・メモをしっかりとって欲しい。また、過去問は出題者のメッセージである。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	中枢神経系の解剖と機能(1)	富田逸郎
第 2 回	講義	中枢神経系の解剖と機能(2)	富田逸郎
第 3 回	講義	神経学診断と評価(1)	富田逸郎
第 4 回	講義	神経学診断と評価(2)	佐藤 聡
第 5 回	講義	神経学的検査法	富田逸郎
第 6 回	講義	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神	佐藤秀代
第 7 回	講義	運動麻痺、錐体路症状、筋萎縮	富田逸郎
第 8 回	講義	錐体外路症状、不随意運動、運動失調	一瀬克浩
第 9 回	講義	感覚障害、失語症	佐藤秀代
第 1 0 回	講義	失認、失行	富田逸郎
第 1 1 回	講義	記憶障害、注意障害、遂行機能障害	富田逸郎
第 1 2 回	講義	構音障害、嚥下障害、球麻痺、脳外科領域疾患	佐藤秀代
第 1 3 回	講義	知能検査、認知症	瀬戸牧子
第 1 4 回	講義	補講	富田逸郎
第 1 5 回		まとめ	富田逸郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験	1 0 0 %	レポート課題	0 %
------------	------	---------	--------	-----

<教科書および参考書>

教科書	奈良 勲	神経内科学 第 4 班(PT・OT 専門基礎分野)	医学書院
参考資料	田崎義昭	ベッドサイドの神経の診かた 神経病学	南山堂

授業科目	精神医学総論					
担当者			所 属	専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有)・無) 作業療法士として精神科病院等に従事し、精神障害者のリハビリテーションに携わった。					
学科名	理学療法学科	学 年	1	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	主な精神症状や精神疾患の特徴および治療について学び、精神障害への理解を深める。
到達目標	代表的な精神障害の精神症状や特徴が説明できるようになる。 精神症状を呈する方への適切な対応ができるための理解を目指す。
学生への要望	ひとの精神機能および障害について理解を深めるために、名称はきちんと読めるようになること。わからない用語は、教科書や辞書で調べる習慣を身に付けてほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	精神医学とは 精神疾患の分類	
第 2 回	講義	精神機能の障害と精神症状①	
第 3 回	講義	精神機能の障害と精神症状②	
第 4 回	講義	器質性精神障害	
第 5 回	講義	精神作用物質による精神および行動の障害	
第 6 回	講義	統合失調症	
第 7 回	講義	気分(感情)障害	
第 8 回	講義	心身症、神経症性障害	
第 9 回	講義	摂食障害、睡眠障害	
第 1 0 回	講義	パーソナリティ障害	
第 1 1 回	講義	心理的発達障害	
第 1 2 回	講義	ライフサイクルにおける精神医学	
第 1 3 回	講義	治療とリハビリテーション① (薬物療法、身体療法)	
第 1 4 回	講義	治療とリハビリテーション② (精神療法)	
第 1 5 回	講義	まとめ	

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0 %
------------	----------------------

<教科書および参考書>

教科書	上野武治；標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第 4 版増補版 医学書院
参考資料	太田保之・他；学生のための精神医学 第 3 版、医歯薬出版 野村総一郎・他；標準精神医学 第 7 版、医学書院 上島国利・他；精神医学テキスト[改訂第 4 版]、南江堂 武田雅俊；精神医学マイテキスト 改訂第 2 版、金芳堂 落合慈之；精神神経疾患 ビジュアルブック、学研メディカル秀潤社

授業科目	小児科学					
担当者	小柳 憲司		所 属	長崎県立こども医療福祉センター		
実務経験者の概要	実務経験(有) 一般病院・小児専門病院における一般小児科診療および小児心療科専門診療（現職）、長崎大学医学部・教育学部、佐賀大学医学部非常勤講師（現職）、児童相談所嘱託医（経験）					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法士・作業療法士国家試験出題基準に準拠しながら、療法士として子どもの治療を行うにあたって必要な知識だけでなく、人として子どもと家族に関わるときに大切なことや、将来親となり子育てを行うときに役立つ知識が得られるような講義を行う。「子どもは小さな大人ではない」と言われるが、子どもを常に成長・発達していく存在として見ていけるようになることをめざす。
到達目標	・子どもの正常発達について知り、発達の異常を見分けることができる。 ・医療従事者として必要な子どもの病気についての知識を持ち、医療現場で他のスタッフと共通言語でコミュニケーションが取れるようになる。 ・感染症やけいれん発作、虐待の疑いがある場合などに適切な対応がとれるようになる。
学生への要望	講義はスライドと配布資料を用いて行う。スライドで示した内容を配布資料や教科書と照らし合わせ、線を引いたりメモを取ったりしながら講義を聞いてほしい。その部分が試験において(もちろん実臨床においても)重要となる。予習は不要だが、講義を聞いて興味をもった分野については、教科書以外にも自分で専門書を探して読み、知識を広げるように努力してほしい。各回講義後に小テストを行う。定期試験は原則、国家試験形式の選択問題とする。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	子どもを診るとはどういうことか(小児科概論) 正常発達、乳幼児健診、予防接種など、全般的注意事項、基礎知識について	小柳憲司
第 2 回	講義	新生児・未熟児・循環器疾患・消化器疾患 新生児・未熟児医療の実際と乳児期に明らかになる先天異常としての循環器疾患・消化器疾患について	小柳憲司
第 3 回	講義	子どもによくある病気(感染症) 子ども時代によく罹患する、ウイルス・細菌感染症について	小柳憲司
第 4 回	講義	免疫・アレルギー疾患・腫瘍性疾患 免疫機序が関与する、アレルギー疾患・自己免疫疾患、および子どもに多い腫瘍性疾患について	小柳憲司
第 5 回	講義	染色体異常・遺伝性疾患 遺伝子に関わる、染色体異常・先天奇形症候群について	小柳憲司
第 6 回	講義	神経・筋疾患 中枢神経系の発生異常・水頭症・神経皮膚症候群・てんかん・筋ジストロフィーなどの神経筋疾患について	小柳憲司

第 7 回	講義	脳性麻痺・重症心身障害児 脳性麻痺・重症心身障害児とその治療、および療育について	小柳憲司
第 8 回	講義	子どものこころの諸問題 発達障害（神経発達症）・心身症・精神疾患・子ども虐待など、子どものこころの問題全般について	小柳憲司

<評価方法>

成績評価・方法・基準	小テスト 3 2 % 定期試験 6 8 % レポート課題 0 %
------------	--

<教科書および参考書>

教科書	富田 豊 標準理学療法学・作業療法学 小児科学 医学書院
参考資料	

授業科目	外科学					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	外科学と内科学の違いは、主として治療手段の違いであって、近年、両者の差は小さくなっているといえる。両教科の授業内容を合わせて臨床医学の概念が頭に入るように、外科学の授業は外科領域に特有の総論的なテーマを中心に学習することとしている。各論の内容は内科学と重複する部分も多い。この部分は内科学でしっかり学習してほしい。
到達目標	創傷、熱傷、感染、出血・輸血、腫瘍に関する基礎的及び診療に関する標準的知識を習得する。心臓外科に関してそのアウトラインを学ぶ予定である。昨年より新型コロナウイルス感染に関連して感染の時間を増やし、心臓外科の部分を減らしている。
学生への要望	外科学は、内科学や整形外科に比べるとリハビリテーションとの関係が薄いように感じられるかも知れないが、現代医学の中で重要な位置を占めており、外科の知識と技術は君たちが医療現場に出てからもぜひ必要なものである。私自身の 40 年に及ぶ外科医としての体験を含め、「外科とは何か」という問題を君たちと一緒に考えてみたいと思う。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	外科の特徴、外科の歴史、外科治療の特殊性	福本先生
第 2 回	講義	損傷（原因、分類、重症度、治療）	田口先生
第 3 回	講義	熱傷（原因、分類、重症度、治療）	岩尾先生
第 4 回	講義	感染対策（滅菌と消毒、院内感染予防対策）	藤田先生
第 5 回	講義	出血・止血・輸血（種類、検査、方法、副作用、対策）	山野先生
第 6 回	講義	腫瘍（１）（良性腫瘍と悪性腫瘍、がんの病態、疫学など）	福本先生
第 7 回	講義	腫瘍（２）（良性腫瘍と悪性腫瘍、がんの病態、疫学など）	福本先生
第 8 回	講義	まとめ	

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	オリジナル資料
参考資料	

授業科目	脳神経外科学					
担当者	陶山 一彦		所 属	長崎みなとメディカルセンター		
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎みなとメディカルセンター 脳神経外科主任診療部長 これまで、長崎大学病院、長崎県島原病院、国立長崎医療センター、長崎労災病院での診療経験がある。長崎大学では大学院医歯薬学総合研究科神経病態制御外科学准教授として、医学生への講義を行っていた。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	脳神経外科学についての知識を深め、実践に役立てる。
到達目標	脳神経外科学の基本概念や代表疾患の病態生理、症候、治療など基礎的知識を習得し、リハビリテーションの臨床現場で活用できるように備える。
学生への要望	考える習慣をつけ、不明な点は早めに解決しましょう。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	神経の臨床解剖、画像診断	陶山一彦
第 2 回	講義	神経症候	陶山一彦
第 3 回	講義	脳血管障害（くも膜下出血）	陶山一彦
第 4 回	講義	脳血管障害（脳出血）	陶山一彦
第 5 回	講義	脳血管障害（脳梗塞）	陶山一彦
第 6 回	講義	脳腫瘍	陶山一彦
第 7 回	講義	頭部外傷	陶山一彦
第 8 回	講義	まとめ	陶山一彦

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	井手隆文 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 医学書院 プリント配布
参考資料	

授業科目	基礎作業学Ⅰ					
担当者	久毛 希・他		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) 回復期リハビリテーション病院、介護老人保健施設にて作業療法士として臨床を経験。主に中枢疾患、高齢期疾患のリハビリテーションを担当する。回復期、維持期の実務経験から各疾患の特性や作業療法について幅広い視野での講義を展開する。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	作業に関する基礎知識についての理解を図る。各種の作業活動の技法を学び、作業療法の治療に用いるための多面的に分析する能力を養う。
到達目標	作業活動を作業療法で用いる意味を説明できる。 作業活動を包括的作業分析の視点で捉えて、説明できる。
学生への要望	課題レポートや作品は期限を守り、真面目に取り組むこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	作業とは	久毛
第 2 回	講義	ひとと作業	久毛
第 3 回	講義	作業の知	
第 4 回	講義	作業と生活機能	
第 5 回	演習	切り絵①	久毛
第 6 回	演習	切り絵②	久毛
第 7 回	講義	作業を分析する①	久毛
第 8 回	演習	ちぎり絵	
第 9 回	講義	作業を分析する②	
第 1 0 回	演習	ロールピクチャー①	
第 1 1 回	演習	ロールピクチャー②	
第 1 2 回	講義	作業を分析する③	
第 1 3 回	演習	刺し子	久毛
第 1 4 回	講義	作業を分析する④	久毛
第 1 5 回	講義	まとめ	久毛・他

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 8 0 % レポート課題 2 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	山根 寛	ひとと作業・作業活動	新版	三輪書店
参考資料	日本作業療法士協会	作業－その治療的応用	改訂第 2 版	協同医書出版

授業科目	作業療法概論Ⅱ					
担当者	久毛 希		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) 回復期リハビリテーション病院、介護老人保健施設にて作業療法士として臨床を経験。主に中枢疾患、高齢期疾患のリハビリテーションを担当する。回復期、維持期の実務経験から各疾患の特性や作業療法について幅広い視野での講義を展開する。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	作業療法の概要を特理解し、作業療法士という専門職としての基本的姿勢を身につける。各講義を通して作業療法の意味や役割、臨床実習に向けての基本的知識について学ぶ。
到達目標	講義内容や臨床実習Ⅰを踏まえて、作業療法士を目指す上での目標像を明確にする。
学生への要望	作業療法への興味がより高まるよう、わからない言葉は調べる、質問するなど自発的に取り組んで欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	作業療法の過程(復習)	久毛
第 2 回	講義	作業療法の資質と職業倫理	久毛
第 3 回	講義	リスク管理(身体領域を中心に)	久毛
第 4 回	講義	認知症サポーター養成講座	小島・茂木地域包括支援センター
第 5 回	講義	生活行為向上マネジメント①	久毛
第 6 回	演習	生活行為向上マネジメント②	久毛
第 7 回	演習	地域作業療法	久毛
第 8 回	演習	まとめ	久毛

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% レポート課題 20%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	日本 OT 協会 作業療法学全書改定第 3 版 作業療法概論 協同医書出版
参考資料	長崎重信 作業療法学 ゴールドマスターテキスト作業療法学概論第 3 版 メジカルビュー社

授業科目	身体機能評価学Ⅱ					
担当者	福島浩満、他		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有)・無) 急性期クリニックと回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。主に脳血管疾患と整形疾患患者への評価・治療の経験をもとに講義を実施する。					
学科名	作業療法学科	学 年	1	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	評価の目的・意義を理解すること、評価に求められる知識と技術を身に付けること、対象者に応じた評価法の選択と計画ができるようになることを学ぶ。
到達目標	基本的技法を身に付け、方法だけでなくなぜその評価が対象者に必要なのかという視点まで考えることができるようになる。
学生への要望	予習・復習をすること。講義と演習の時間だけでは修得することは難しい。学生同士で協力して積極的に練習して欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	評価の目的および意義/面接・観察	久毛
第 2 回	演習	形態測定（身長・体重・四肢長・周径）	福島
第 3 回	演習	感覚検査	久毛
第 4 回	演習	片麻痺機能検査（Brunnstrom stage）	福島
第 5 回	演習	筋緊張検査	久毛
第 6 回	演習	腱反射、病的反射	福島
第 7 回	演習	姿勢反応、バランス評価	久毛
第 8 回	演習	関節可動域測定①（上肢①）	福島
第 9 回	演習	関節可動域測定②（上肢②）	福島
第 1 0 回	演習	関節可動域測定③（下肢）	久毛
第 1 1 回	演習	関節可動域測定④（頸部・体幹）	久毛
第 1 2 回	演習	関節可動域測定⑤（手指・足趾・復習）	福島
第 1 3 回	講義	痛みの評価	久毛
第 1 4 回	講義	脳卒中の機能評価（SIAS）	福島
第 1 5 回		まとめ	福島、久毛

<評価方法>

成績評価・方法・基準	筆記試験 60% 実技試験 40%
------------	-------------------

<教科書および参考書>

教科書	矢谷令子	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第 3 版	医学書院
	田崎義昭	ベッドサイドの神経の診かた 改訂 18 版	南山堂
参考資料	潮見泰蔵	リハビリテーション基礎評価学 第 1 版	羊上社

授業科目	精神機能評価学Ⅱ					
担当者	渡邊 正之		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) 精神分野の病院にて作業療法を行い、主に統合失調症・うつ病・認知症・神経症性障害のリハビリテーションを担当していた。臨床での経験や実務内容疾患の特性などを講義で話していきたい。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	精神科領域の対象者理解に求められる評価について学び。治療場面から生活場面まで、幅広い評価のうち、現在多く使用されているものの中で、学生が実施可能なものを中心に学ぶ。
到達目標	それぞれの評価手段の特徴を学び実践できるようになる。
学生への要望	臨床心理学や精神医学、精神治療学など関連性が高いものです。対象者像をイメージできるよう予習・復習を行い、わからない言葉や単語は調べて理解しておいて下さい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	精神科作業療法の概要	渡邊正之
第 2 回	講義	精神領域での評価項目	渡邊正之
第 3 回	講義	評価の手段 情報収集	渡邊正之
第 4 回	講義	面接①（構造、形態、種類）	渡邊正之
第 5 回	講義	面接②（構成的作業面接、投影的作業面接）	渡邊正之
第 6 回	講義	面接③（ニーズ、デマンドの評価 COPM・MTDLP）	渡邊正之
第 7 回	講義	観察①（活動機能）	渡邊正之
第 8 回	講義	観察②（参加機能、集団の構造）	渡邊正之
第 9 回	講義	検査①（統合失調症、気分障害、社会生活能力）	渡邊正之
第 1 0 回	講義	評価体験①	渡邊正之
第 1 1 回	講義	評価体験②	渡邊正之
第 1 2 回	講義	評価体験③	渡邊正之
第 1 3 回	講義	検査②（自己効力感、気分と疲労）	渡邊正之
第 1 4 回	講義	記録（SOAP）	渡邊正之
第 1 5 回	講義	まとめ	渡邊正之

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0 %
------------	----------------------

<教科書および参考書>

教科書	山根 寛 精神障害と作業療法 新版 三輪書店
参考資料	

授業科目	日常生活活動Ⅱ					
担当者	荒木 一博		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験（有） 身体障害領域の医療機関、介護老人保健施設で作業療法士として従事					
学科名	作業療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	2 年次の専門的な学習につなげるために、私たちが日々遂行している日常生活活動の各動作について、講義や演習を通して深く考える機会にし、みるべき視点や工夫を考えてもらう。
到達目標	・ 暮らしのなかで行われる日常生活活動について、含まれる要素や評価すべき点がわかる。 ・ 日常生活活動の動作遂行に問題を抱えた時に、改善すべき視点を挙げることができる。
学生への要望	・ 身近な日常生活の様々な活動について、興味を持って学んでほしい。 ・ 演習やグループワークなど主体的に取り組んでもらいたい。 ・ 実習室での授業時はユニフォームを着用し、身なりを整えておくこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	復習と概要説明、課題発表	荒木一博
第 2 回	演習	住環境	荒木一博
第 3 回	演習	起居移動動作①	荒木一博
第 4 回	講義	起居移動動作②	荒木一博
第 5 回	講義	食事動作	荒木一博
第 6 回	講義	排泄動作	荒木一博
第 7 回	講義	入浴動作	荒木一博
第 8 回	講義	更衣動作	荒木一博
第 9 回	講義	整容動作	荒木一博
第 1 0 回	講義	コミュニケーション、応用動作①	荒木一博
第 1 1 回	講義	応用動作②	荒木一博
第 1 2 回	講義	ADL 評価各論①	荒木一博
第 1 3 回	講義	ADL 評価各論②	荒木一博
第 1 4 回	講義	ADL 評価各論③	荒木一博
第 1 5 回	講義	まとめ	荒木一博

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 % レポート課題 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	長崎重信	OT 学ゴールド・マスターテキスト 日常生活活動（ADL）	メジカルビュー社
参考資料	伊藤利之 橋元 隆	新版 日常生活活動（ADL）第 2 版 評価と支援の実際 日常生活活動（ADL）	医歯薬出版 神稜文庫

授業科目	臨床実習 I					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	4 5 時間	

<内 容>

授業の概要	対象者に評価・治療を行うのではなく、対象者や施設・医療スタッフに対して適切な態度で接すること、診療チームの一員としての理学療法士・作業療法士の役割について学ぶ。
到達目標	① 医療関連職種に限らず、保健、福祉などにおけるセラピストの役割・分担について見学・体験する。 ② 対象者のもつ諸問題を身体的、心理的、社会的な視点で考える。 ③ セラピストと関わる他の関連職種についての役割・分担・専門内容を見学・体験する。 ④ 医療・福祉の各施設でセラピストが関わる事業の目的、役割及びリハビリテーション運営について見学・体験する。 ⑤ 見学・体験を通じて履修した知識及び技術を確認し、第 2 学年への学習意欲を更に高める。 ⑥ セラピスト、あるいは医療・福祉従事者の概念を把握し、将来、自分が理学療法士、作業療法士として進むための自覚を高める。
学生への要望	臨床での教育は、理学療法士・作業療法士という専門職と目指す学生にとって貴重な経験だが、その場では対象者の方々の協力と先輩である専門職の方々の行為によって提供されていることを認識しておくこと。

<講義計画>

臨床実習前：臨床実習オリエンテーション
臨床実習施設：協力医療機関
一般目標 1：社会人としての行動や役割を理解する
行動目標
①身だしなみや言葉遣い等社会人としての心得を説明し、適切な行動ができる。
②1日の業務の流れを理解し、清掃や整理整頓、治療準備などの診療周辺業務を体験する。
③臨床でしか学べないこと（メモをとる能力や相手との距離感など）を理解して、経験したことや学んだことを蓄積する。
一般目標 2：医療・保健・福祉におけるセラピストの役割、分担を体験し、理解する
行動目標
① 臨床実習指導者による対象者の評価及び治療における場面を見学する。可能であれば、診療補助の体験をする。
② カンファレンスなどに積極的に参加し、セラピストの立場や他職種から提供される情報を具体的に理解する。
③ チームの一員としての連携方法を見学・体験し、セラピストとしての責任と自覚を高めることができる。
④ 臨床実習施設の社会的役割と組織と運営についての概要を理解する。
一般目標 3：対象者との関わりの中で対象者の持つ課題を理解する
行動目標

- | |
|---|
| ① 回診、検査、測定、評価の見学・補助並びにカンファレンス、院内勉強会などに参加し、質問、問題討議の場を体験する。 |
| ② 対象者の療養室巡回、家庭訪問等の場を体験し、対象者と生活環境との関係性を理解する。 |
| ③ 他職種による評価や治療の場面を見学し、具体的にその職種の役割や仕事内容などを理解する。 |

<評価方法>

成績評価・方法・基準	臨床実習教育者の評価 40% レポート課題 60%
------------	---------------------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

作業療法学科 2 年生 前期

授業科目	解剖学Ⅲ					
担当者			所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(無)					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法・作業療法と関わりが深い、運動器系の人体の構造を理解するために、骨の名称、筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について骨と筋の模型を用いて学修する。
到達目標	①骨の位置、筋の起始・停止や走行を理解して体の動きをイメージできる。 ②筋・骨格系・神経系を学び、臨牀に繋げられるようになる。
学生への要望	しっかりと予習と復習をして、学んだ内容をノートにまとめること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	オリエンテーション 解剖学概論：命の尊さ、倫理、学習方法について	
第 2 回	講義	鎖骨、肩甲骨、上腕骨 グループワーク	
第 3 回	講義	上腕骨、橈骨、尺骨、手部の骨 グループワーク	
第 4 回	講義	寛骨、仙骨、尾骨、大腿骨 グループワーク	
第 5 回	講義	脛骨、腓骨、足部の骨 グループワーク	
第 6 回	講義	脊柱の骨、肋骨、胸骨 グループワーク	
第 7 回	講義	頭蓋骨、顔面の筋、頸部の筋、頸神経叢 グループワーク	
第 8 回	講義	体幹部・骨盤部の筋、腰神経叢 グループワーク	
第 9 回	講義	大腿部の筋 グループワーク	
第 10 回	講義	下腿部の筋 グループワーク	
第 11 回	講義	足部の筋 グループワーク	
第 12 回	講義	肩甲骨周囲部の筋、腕神経叢 グループワーク	
第 13 回	講義	上腕部の筋 グループワーク	
第 14 回	講義	前腕部の筋 グループワーク	
第 15 回	講義	手部の筋 グループワーク	

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 0% ノート課題提出 100%
------------	---------------------------

<教科書および参考書>

教科書	分冊 解剖学アトラスⅠ・Ⅱ・Ⅲ 平田幸男 文光堂 ヒューマン・アナトミー・アトラス 2021 (iPad アプリ)
参考資料	分担 解剖学 1.2.3 小川鼎三・他 金原書店

授業科目	解剖学演習					
担当者	弦本敏行・佐伯和信・高村敬子・ 分部哲秋		所 属	長崎大学生命医科学域		
実務経験者の概要	実務経験(有) 弦本敏行は整形外科医として、高村敬子は麻酔科医として、西啓太は理学療法士として実務経験がある。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	45 時間	

<内 容>

授業の概要	解剖学標本を観察させていただくことにより、人体諸器官の正常構造およびそれぞれの器官の関連性について学習する。
到達目標	人体の構造について、その実際を肉眼解剖学的見地から説明できるようになる。
学生への要望	実習前までに解剖標本見学実習ノートを作成し、しっかりと事前学習すること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	実習オリエンテーション	分部哲秋
第 2 回	講義	事前オリエンテーション	分部哲秋
第 3 回	講義	直前オリエンテーション	分部哲秋
第 4 回	実習	I .頭部①	弦本敏行・佐伯和信 高村敬子 分部哲秋
第 5 回	実習	I .頭部②、 II .頸部①	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 6 回	実習	II .頸部②	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 7 回	実習	III .胸部①	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 8 回	実習	III .胸部②、 IV .腹部と骨盤①	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 9 回	実習	IV .腹部と骨盤②	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 10 回	実習	V .内蔵①、	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 11 回	実習	V .内蔵②、 ※(XI)脳と脊髄の観察①	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 12 回	実習	V .内蔵③、 ※(XI)脳と脊髄の観察②	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 13 回	実習	VI .背部①	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 14 回	実習	VI .背部②、 VII .上肢①－ 1	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 15 回	実習	VII .上肢①－ 2	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 16 回	実習	VII .上肢②－ 1	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 17 回	実習	VII .上肢②－ 2	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 18 回	実習	VIII .臀部①、 IX .下肢①－ 1	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 19 回	実習	VIII .臀部②、 IX .下肢①－ 2	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 20 回	実習	X .関節①、 IX .下肢②－ 1	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 21 回	実習	X .関節②、 IX .下肢②－ 2	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 22 回	実習	全身に構造について観察	佐伯和信・高村敬子 分部哲秋
第 23 回	講義	まとめ	分部哲秋

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% ノート作成 10%
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	分冊 解剖学アトラスⅠ・Ⅱ・Ⅲ	平田幸男	文光堂
参考資料	分担 解剖学 1.2.3	小川鼎三・他	金原書店

授業科目	運動学Ⅲ					
担当者	久毛 希		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) 回復期リハビリテーション病院、介護老人保健施設にて作業療法士として臨床を経験。主に中枢疾患、高齢期疾患のリハビリテーションを担当する。回復期、維持期の実務経験から各疾患の特性や作業療法について幅広い視野での講義を展開する。					
学科名	作業療法学科	学 年	1 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	骨性のランドマークの位置や関節運動に関わる筋を把握し、姿勢、動作の分析に繋げる。作業療法における動作分析の位置づけを理解し、評価、治療に繋げる。
到達目標	基本動作の種類(寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行)やメカニズムについて説明できる。正常動作と異常動作との違いを理解できる。
学生への要望	動作分析は経験により分析力が深まっていくものである。普段の日常生活動作から常に分析を意識するように心掛けて欲しい。また、運動学や解剖学等一年次の学習内容を復習し、分析の視点に役立てて欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	演習	上肢・下肢・頭頸部・体幹の骨性ランドマークと筋の触察①	久毛
第 2 回	演習	上肢・下肢・頭頸部・体幹の骨性ランドマークと筋の触察②	久毛
第 3 回	講義	運動力学の基礎	久毛
第 4 回	講義	姿勢と保持	久毛
第 5 回	講義	寝返り、起き上がり①	久毛
第 6 回	演習	寝返り、起き上がり②	久毛
第 7 回	講義	立ち上がり①	久毛
第 8 回	演習	立ち上がり②	久毛
第 9 回	講義	歩行分析①	久毛
第 10 回	演習	歩行分析②	久毛
第 11 回	講義	歩行分析③	久毛
第 12 回	講義	歩行分析④	久毛
第 13 回	講義	異常歩行と評価のポイント	久毛
第 14 回	講義	脳血管障害後片麻痺の姿勢・動作の特徴と分析	久毛
第 15 回		まとめ	久毛

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% レポート課題 10%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	石川 朗 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学 中山書店
参考資料	石川 朗 理学療法・作業療法学テキスト 運動学実習 中山書店
	隈元庸夫 症例動作分析 動画から学ぶ姿勢と動作 ヒューマン・プレス
	臨床歩行分析研究会 PT・OT ビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 第1版 羊土社

授業科目	内科学Ⅱ					
担当者	井手 政利 藤本 健志		所 属	井手内科クリニック 長与病院		
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎労災病院、虹ヶ丘病院で内科医として勤務して、現在は井手内科クリニックの院長として診療を行っている。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	1 年後期に引き続き、消化器系疾患および系統的疾患を学習する。 教科書は 1 年後期と同じものを使用し、プリントを併用することも前回と同様である。 1 年後期と同じく、断片的知識よりも、病態の理解を中心に授業を進める方針である。
到達目標	消化器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、血液・造血器疾患などについて病因、病態、診断、治療、予後を系統的に学習し、内部障害との関連を整理する。
学生への要望	学習すべき内容が多いのは 2 年前期も 1 年後期と同様である。3 年という期間で国家試験合格の力をつけるのは容易なことではなく、内科学の知識は国家試験一般問題の根幹をなす重要部分であることを認識し、あと 2 年の期間を有効に活用する必要がある。成績がよい学生と留年する学生の違いは「頭の良さ」などではなく、日々学習する習慣が身についているかいないかの違いである。気合を入れ直して授業に臨んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	消化器疾患 1 (総論)	井手政利
第 2 回	講義	消化器疾患 2 (各論 1)	井手政利
第 3 回	講義	消化器疾患 3 (各論 2)	井手政利
第 4 回	講義	肝胆膵疾患 1 (解剖生理)	井手政利
第 5 回	講義	肝胆膵疾患 2 (各論 1)	井手政利
第 6 回	講義	肝胆膵疾患 3 (各論 2)	井手政利
第 7 回	講義	血液・造血器疾患 1 (総論)	藤本健志
第 8 回	講義	血液・造血器疾患 2 (各論)	藤本健志
第 9 回	講義	代謝性疾患 1	井手政利
第 1 0 回	講義	代謝性疾患 2	井手政利
第 1 1 回	講義	内分泌疾患 1 (総論)	井手政利
第 1 2 回	講義	内分泌疾患 2 (各論)	井手政利
第 1 3 回	講義	腎・泌尿器疾患 1	井手政利
第 1 4 回	講義	腎・泌尿器疾患 2、演習問題	井手政利
第 1 5 回	講義	まとめ	井手・藤本

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 % レポート課題 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	前田英治ほか 標準 PT・OT シリーズ 内科学 第 3 版 医学書院
-----	-------------------------------------

	プリント配布
参考資料	

授業科目	整形外科科学Ⅱ					
担当者	衛藤 正雄		所 属	済生会長崎病院		
実務経験者の概要	実務経験(有) 元長崎大学病院整形外科准教授として、医学生への講義行っていた。本校でも平成 7 年の創立時より、整形外科科学の講義を行っている。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	整形外科一般（基礎、診断、治療、リハビリ）
到達目標	整形外科の基礎を学習・理解すること
学生への要望	授業をよく聞き、大切な個所をチェックする。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	各論 脊椎・脊髄 構造と機能、外傷	衛藤正雄
第 2 回	講義	各論 脊椎・脊髄 疾患 1	衛藤正雄
第 3 回	講義	各論 脊椎・脊髄 疾患 2	衛藤正雄
第 4 回	講義	各論 骨盤、慢性疾患	衛藤正雄
第 5 回	講義	慢性関節疾患、リウマチとその類縁疾患 1	衛藤正雄
第 6 回	講義	各論 リウマチとその類縁疾患 2	衛藤正雄
第 7 回	講義	各論 感染症、代謝・内分泌疾患	衛藤正雄
第 8 回	講義	ロコモティブシンドロームと運動器不安定症、骨・軟部腫瘍 1	衛藤正雄
第 9 回	講義	各論 骨・軟部腫瘍 2	衛藤正雄
第 1 0 回	講義	各論 神経疾患・筋疾患 末梢神経	衛藤正雄
第 1 1 回	講義	各論 神経疾患・筋疾患 特殊な外傷、脳性麻痺、筋ジストロフィー	衛藤正雄
第 1 2 回	講義	各論 骨系統疾患、骨壊死疾患および四肢欠損	衛藤正雄
第 1 3 回	講義	各論 四肢循環障害、四肢切断および四肢欠損	衛藤正雄
第 1 4 回	講義	まとめ	衛藤正雄
第 1 5 回	講義	まとめ	衛藤正雄

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 % レポート課題 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	高橋邦泰、他 整形外科科学テキスト 改訂第 4 版 南江堂
参考資料	

授業科目	神経内科学Ⅱ					
担当者	佐藤 聡・富田逸郎・瀬戸牧子・ 佐藤秀代 一瀬克浩		所 属	長崎北病院		
実務経験者の概要	実務経験(有)長崎北病院で神経内科医師として診療にあたっている。20年にわたり、当校で講義・指導にあたっている。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	実地臨床で遭遇することが多い神経内科疾患について、疾患概念、病因、疫学、臨床所見、検査、治療を講義する。
到達目標	理学療法士、作業療法士として知っておくべき神経疾患の知識を習得する。
学生への要望	臨床・介入の場面で遭遇する神経疾患は多いが、ポイントは限られている。総論同様、授業でポイントをつかんで欲しい。また、ノート、メモをしっかりとって欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	脳血管疾患、頭蓋内出血、くも膜下出血	佐藤 聡
第 2 回	講義	脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血発作	佐藤 聡
第 3 回	講義	分水界梗塞、特異な臨床像他、診断、治療	佐藤 聡
第 4 回	講義	脊髄性感覚障害、脊髄疾患	富田逸郎
第 5 回	講義	脊髄性小脳変性症、MND、BSMA、MS、NMO、ADEM	一瀬克浩
第 6 回	講義	Parkinson 病、PSP、SND、SMA、Fahr 病	一瀬克浩
第 7 回	講義	ジストニー、瀬川病、Wilson、舞蹈病	富田逸郎
第 8 回	講義	末梢神経障害	富田逸郎
第 9 回	講義	ミオパチー（筋ジス）	佐藤 聡
第 1 0 回	講義	ミオパチー（Myotonia）、MELAS、筋無力症、筋炎	佐藤 聡
第 1 1 回	講義	神経感染症	佐藤秀代
第 1 2 回	講義	てんかん、中毒、先天性代謝障害	佐藤秀代
第 1 3 回	講義	糖尿病、肝不全、腎不全、排尿障害、リウマチ	瀬戸牧子
第 1 4 回	講義	補講、総合講義	富田逸郎
第 1 5 回	講義	まとめ	富田逸郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 % レポート課題 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	奈良 勲	神経内科学 第 4 版 (PT・OT 専門基礎分野)	医学書院
参考資料	田崎義昭	ベッドサイドの神経の診かた 神経病学	南山堂

授業科目	臨床医学Ⅰ					
担当者	田崎 修、村橋志門、上村恵理、猪熊孝実、太田黒 崇伸 江原大輔		所 属	長崎大学病院 高度救急救命センター 長崎大学病院 皮膚科		
実務経験者の概要	実務経験(有)					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	医療従事者として、専門領域以外の臨床医学について幅広い知識と教養を身につけるために、必須専門基礎科目に含まれない他の臨床医学分野について学ぶ。
到達目標	学生諸君が、将来社会に出たとき、或いは明日、眼前で人が倒れたとき、救急処置が行えるよう、必要な知識を習得する。
学生への要望	

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	救急医学領域 1 (救急医療体制)	田崎 修
第 2 回	講義	救急医学領域 2 (心肺蘇生)	村橋 志門
第 3 回	講義	救急医学領域 3 (ショック)	上村 恵理
第 4 回	講義	救急医学領域 4 (外傷)	猪熊 孝実
第 5 回	講義	救急医学領域 5 (敗血症)	太田黒 崇伸
第 6 回	講義	皮膚科領域 1	江原大輔
第 7 回	講義	皮膚科領域 2	江原大輔
第 8 回		まとめ	田崎・村橋・上村・猪熊・太田黒・江原

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	配布プリント
参考資料	

授業科目	精神医学					
担当者	岩阪 真大		所 属	医療法人 昌生会 出口病院		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) 作業療法士として精神科病院等に従事し、精神障害者のリハビリテーションに携わった。					
学科名	作業療法学科	学 年	2	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	精神障害の診断、各精神疾患の特性や経過や予後についての理解を深める。また、関連する治療法やリハビリテーション、精神保健について学ぶ。
到達目標	各精神疾患についての特徴(特性)をさらに詳しく学ぶと共に、治療法やリハビリテーションについて理解を深め、臨床場面で適切な対応・行動がとれるようになることを目指す。
学生への要望	精神医学総論で学んだ精神症状の復習を行っておくこと。新たな疾患名が多数出てくるので、わからない用語などは、教科書や辞書で調べることを。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	精神障害にかかわる概念	岩阪 真大
第 2 回	講義	精神障害の診断と評価	岩阪 真大
第 3 回	講義	脳器質性精神障害（認知症） 1	岩阪 真大
第 4 回	講義	脳器質性精神障害（認知症） 2	岩阪 真大
第 5 回	講義	精神作用物質による精神障害の特徴と治療	岩阪 真大
第 6 回	講義	てんかんの特徴と治療	岩阪 真大
第 7 回	講義	統合失調症およびその関連障害 1	岩阪 真大
第 8 回	講義	統合失調症およびその関連障害 2	岩阪 真大
第 9 回	講義	気分（感情）障害	岩阪 真大
第 1 0 回	講義	神経症性障害の特徴と治療	岩阪 真大
第 1 1 回	講義	パーソナリティ障害の特徴と治療	岩阪 真大
第 1 2 回	講義	精神保健医療と福祉、治療とリハビリテーション	岩阪 真大
第 1 3 回	講義	治療とリハビリテーション①	岩阪 真大
第 1 4 回	講義	治療とリハビリテーション② メンタルヘルス	岩阪 真大
第 1 5 回	講義	まとめ	岩阪 真大

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0 %
------------	----------------------

<教科書および参考書>

教科書	上野武治；標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第 4 版 増補版、医学書院
参考資料	野村総一郎・他；標準精神医学 第 7 版、医学書院 上島国利・他；精神医学テキスト[改訂第 4 版]、南江堂 落合慈之；精神神経疾患 ビジュアルブック、学研メディカル秀潤社

授業科目	基礎作業学Ⅱ					
担当者	久毛 希・他		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者 の概要	実務経験(有) 作業療法士として、回復期病院・介護老人保健施設において様々な作業活動に従事した。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	2 単位	
		開講時期	前期	総時間数	60 時間	

<内 容>

授業の概要	各種の作業活動(Activity)を行い、作業分析および指導法について習得する。また各作業活動のもつ治療効果について学ぶ。
到達目標	包括的作業分析等を行い、それぞれの作業の特性を説明できる。 作業療法的視点でそれぞれの作業の治療的応用・知超効果を説明できる。
学生への要望	技法の習得に終始することなく、作業活動の意義についての理解を深め、活動の持つ魅力についても探求してほしい。また、治療的応用についても積極的に学んでほしい。 事前に各作業活動について予習を行い、活動に適した服装で参加すること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1-2 回	講義	取り組む活動(全 6 種目)の概要の理解 演習に必要な道具等の準備・確認	荒木・牧山 久毛・渡邊・福島
第 3-6 回	演習	グループに分かれての体験と理解①(園芸・陶芸)	荒木・久毛
第 7-10 回	演習	グループに分かれての体験と理解②(絵画・園芸)	渡邊・荒木
第 11-14 回	演習	グループに分かれての体験と理解③(陶芸・絵画)	久毛・渡邊
第 15-16 回	演習	作業分析と治療的応用について(レポートのフィードバック) 片付け	荒木・渡邊・久毛
第 17-20 回	演習	グループに分かれての体験と理解④(織物・木工)	荒木・福島
第 21-24 回	演習	グループに分かれての体験と理解⑤(まくらめ・織物)	牧山・荒木
第 25-28 回	演習	グループに分かれての体験と理解⑥(木工・絵画)	福島・渡邊
第 29-30 回	演習	作業分析と治療的応用について(レポートのフィードバック) 釉薬掛け・片付け	荒木・福島・渡邊・久毛

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 50% レポート課題 30% 作品課題 20%
------------	------------------------------

<教科書および参考書>

教科書	山根 寛 ひとと作業・作業活動 新版 三輪書店 日本作業療法士協会 作業―その治療的応用 改訂第 2 版 協同医書出版
参考資料	鷺田孝保; 作業療法学全書第 2 巻 基礎作業学、協同医書出版 岩瀬義昭; 基礎作業学実習ガイド、協同医書出版

授業科目	身体機能評価学Ⅲ					
担当者	福島浩満、他		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) 急性期クリニックと回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。主に脳血管疾患と整形疾患患者への評価・治療の経験をもとに講義を実施する。					
学科名	作業療法学科	学 年	2	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	身体障害領域の対象者理解に求められる評価について学ぶ。各検査の目的及び方法を臨床で実施し、迅速に行えるように体験する。
到達目標	履修した評価技法を学生同士で実施することができる。対象者に対して実施する場合のリスクを理解する。
学生への要望	評価学実習を行う前に、各検査は一人一人が被験者・検査者となり、協力して実施できるように学んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	演習	評価復習【バイタル、形態測定、反射、感覚検査】	福島・久毛
第 2 回	演習	評価復習【筋緊張、BRS、ROM】	福島・久毛
第 3 回	講義	片麻痺機能検査（上田 12 段階グレード法）	福島
第 4 回	講義	脳神経検査	福島
第 5 回	講義	上肢機能検査	久毛
第 6 回	講義	協調性の評価	久毛
第 7 回	講義	MMT 総論、その他の筋力測定【握力計、ピンチ力計】	福島・久毛
第 8 回	演習	MMT 上肢①	福島・久毛
第 9 回	演習	MMT 上肢②	福島・久毛
第 10 回	演習	MMT 下肢①	福島・久毛
第 11 回	演習	MMT 下肢②	福島・久毛
第 12 回	演習	MMT 頭部・頸部	福島・久毛
第 13 回	演習	MMT 体幹	福島・久毛
第 14 回	演習	評価検討（事例検討）	福島・久毛
第 15 回		まとめ	福島・久毛

<評価方法>

成績評価・方法・基準	筆記試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	長崎重信 津山直一	OT 学ポータルマスターテキスト 作業療法評価学(改訂第 2 版) 新・徒手筋力検査法	メジカルビュー社 協同医書出版
参考資料	田崎義明 岩崎テル子	ベッドサイドの神経の診かた 標準作業療法学 作業療法評価学第 2 版	南山堂 医学書院

授業科目	精神機能評価学Ⅲ					
担当者	渡邊正之		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有)・無) 精神分野の病院にて作業療法を行い、主に統合失調症・うつ病・認知症・神経症性障害のリハビリテーションを担当していた。臨床での経験や実務内容疾患の特性などを講義で話していきたい。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	評価技法は知識だけでは習得できない。面接や各評価を実施できる力を身につけるため、演習する機会を設ける。
到達目標	評価の演習を行いながら基本的な関わり方（自己紹介、挨拶）を身に着ける
学生への要望	精神医学及び精神機能評価学Ⅰ・Ⅱの復習をしておくこと。評価の意義を理解し、自分の言葉で説明できるよう、練習する事。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	基本的な面接の進め方①	渡邊正之
第 2 回	講義	基本的な面接の進め方②	渡邊正之
第 3 回	演習	興味・関心チェックリスト	渡邊正之
第 4 回	講義	カナダ作業遂行測定（COPM）①	渡邊正之
第 5 回	演習	カナダ作業遂行測定（COPM）②	渡邊正之
第 6 回	講義	精神障害者社会生活評価尺度①	渡邊正之
第 7 回	演習	精神障害者社会生活評価尺度②	渡邊正之
第 8 回	講義	日本 OT 協会版ケアアセスメント①	渡邊正之
第 9 回	演習	日本 OT 協会版ケアアセスメント②	渡邊正之
第 1 0 回	講義	自己効力感尺度（SECL）①	渡邊正之
第 1 1 回	演習	自己効力感尺度（SECL）②	渡邊正之
第 1 2 回	講義	気分と疲労のチェックリスト（SMSF）①	渡邊正之
第 1 3 回	演習	気分と疲労のチェックリスト（SMSF）②	渡邊正之
第 1 4 回	演習	うつ病自己評価尺度（SDS）	渡邊正之
第 1 5 回		まとめ	渡邊正之

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0 %
------------	----------------------

<教科書および参考書>

教科書			
参考資料	山根 寛	精神障害と作業療法 新版	三輪書店
	Mary Law	COPM～カナダ作業遂行測定～第 4 版	大学教育出版
	岩崎テル子	標準作業療法 専門分野 作業療法評価学第 2 版	医学書院

授業科目	作業療法評価学演習					
担当者	久毛 希・他		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) 回復期リハビリテーション病院、介護老人保健施設にて作業療法士として臨床を経験。主に中枢疾患、高齢期疾患のリハビリテーションを担当する。回復期、維持期の実務経験から各疾患の特性や作業療法について幅広い視野での講義を展開する。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	身体障害領域、精神障害領域の対象者理解に求められる評価について学ぶ。各検査の目的及び方法を臨床で体験し、手順や結果の抽出、結果の解釈に対する考え方を学ぶ。
到達目標	評価内容の意味と目的を理解し、対象者に合った適切な評価を実施することができる。
学生への要望	各疾患についての復習をして臨んで欲しい。臨床現場での実習を行う前に、各検査を協力して被検者・検査者となり、実施できるように準備して欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	演習	臨床評価演習①	久毛・福島・渡邊
第 2 回	演習	臨床評価演習②	久毛・福島・渡邊
第 3 回	演習	臨床評価演習③	久毛・福島・渡邊
第 4 回	演習	臨床評価演習④	久毛・福島・渡邊
第 5 回	演習	臨床評価演習⑤	久毛・福島・渡邊
第 6 回	演習	臨床評価演習⑥	久毛・福島・渡邊
第 7 回	演習	臨床評価演習⑦	久毛・福島・渡邊
第 8 回	演習	臨床評価演習⑧	久毛・福島・渡邊
第 9 回	演習	臨床評価演習⑨	久毛・福島・渡邊
第 1 0 回	演習	臨床評価演習⑩	久毛・福島・渡邊
第 1 1 回	演習	臨床評価演習⑪	久毛・福島・渡邊
第 1 2 回	演習	臨床評価演習⑫	久毛・福島・渡邊
第 1 3 回	演習	臨床評価演習⑬	久毛・福島・渡邊
第 1 4 回	演習	臨床評価演習⑭	久毛・福島・渡邊
第 1 5 回		臨床評価演習⑮	久毛・福島・渡邊

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験（実技試験）100%
------------	----------------

<教科書および参考書>

教科書	プリント配布
参考資料	

授業科目	身体障害治療学Ⅰ					
担当者	久毛 希・他		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) 回復期リハビリテーション病院、介護老人保健施設にて作業療法士として臨床を経験。主に中枢疾患、高齢期疾患のリハビリテーションを担当する。回復期、維持期の実務経験から各疾患の特性や作業療法について幅広い視野での講義を展開する。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	身体障害作業療法の理論的アプローチおよびその理論に基づく疾患別対処法を学習する。
到達目標	治療原理や疾患ごとの予後や生活障害の特性について説明・模擬実践できる。
学生への要望	臨床に直結する科目であるため、疾患の特性はもちろんリスク管理を含めた予習復習を怠らないようにしてほしい。受け身で学習するのではなく、常に疑問を持ち自発的に取り組んで欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	身体障害作業療法の基礎①	福島
第 2 回	講義	身体障害作業療法の基礎②	福島
第 3 回	講義	治療原理①(関節可動域維持・拡大)	福島
第 4 回	演習	治療原理②(関節可動域維持・拡大)	福島
第 5 回	講義	治療原理③(筋力と筋持久力、筋緊張異常)	久毛
第 6 回	演習	治療原理④(筋力と筋持久力、筋緊張異常)	久毛
第 7 回	講義	治療原理⑤(不随運動、協調運動障害、感覚・知覚再教育)	久毛
第 8 回	演習	治療原理⑥(不随運動、協調運動障害、感覚・知覚再教育)	久毛
第 9 回	講義	脳血管疾患の作業療法①(CVA①)	久毛
第 10 回	演習	脳血管疾患の作業療法②(CVA②)	久毛
第 11 回	講義	脳血管疾患の作業療法③(頭部外傷)	久毛
第 12 回	講義	運動器疾患の作業療法①(上腕骨骨折)	福島
第 13 回	講義	運動器疾患の作業療法②(前腕・手の骨折)	福島
第 14 回	講義	運動器疾患の作業療法③(下肢骨骨折)	福島
第 15 回		まとめ	福島・久毛

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0 %
------------	----------------------

<教科書および参考書>

教科書	山口 昇 編集 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第 3 版 小林 隆司 身体障害作業療法学 1 骨関節・神経疾患編 羊土社 医療情報科学研究所 病気がみえる 〈vol.7〉 脳・神経 第 2 版 メディックメディア
参考資料	長崎重信 監修・編集 作業療法学 ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 第 2 版

授業科目	身体障害治療学Ⅱ					
担当者	荒木 一博		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) 身体障害領域の医療機関、介護老人保健施設で作業療法士として従事					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	2 0 時間	

<内 容>

授業の概要	主診断や合併症も含めて内部障害に対する作業療法の重要性は年々高くなってきている。本講義では呼吸器疾患、循環器疾患、肝臓・腎臓機能障害、がんを中心に病態や治療の基礎について知識の習得を目指す。
到達目標	・ 内部疾患に共通する基礎的知識を習得する。 ・ 内部疾患に対する作業療法プログラムを理解する。
学生への要望	・ 各腫疾患の病態については、他の専門基礎科目との知識を関連させて学習してもらいたい。 ・ 講義前に指定する予習には、しっかり取り組んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	内部障害に対する作業療法の基礎①	荒木一博
第 2 回	講義	内部障害に対する作業療法の基礎②	荒木一博
第 3 回	講義	呼吸器疾患	荒木一博
第 4 回	講義	心疾患	荒木一博
第 5 回	講義	がん	荒木一博
第 6 回	講義	サルコペニアとリハビリテーション栄養	荒木一博
第 7 回	講義	糖尿病	荒木一博
第 8 回	講義	下部尿路機能障害	荒木一博
第 9 回	講義	事例検討	荒木一博
第 1 0 回	講義	まとめ	荒木一博

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0 %
------------	----------------------

<教科書および参考書>

教科書	小林隆司	身体障害 作業療法学 2 内部疾患編	羊土社
参考資料	上月正博	新編 内部障害のリハビリテーション第 2 版	医歯薬出版
	長崎重信	OT 学ゴールド・マスターテキスト 身体障害 OT 学 改定第 2 版	メジカルビュー社

授業科目	精神障害治療学Ⅰ					
担当者	渡邊正之		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) 精神分野の病院にて作業療法を行い、主に統合失調症・うつ病・認知症・神経症性障害のリハビリテーションを担当していた。臨床での経験や実務内容疾患の特性などを講義で話していきたい。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	精神障害に対する作業療法の目的、治療構造、理論・技法、制度とシステムについて学ぶ。 また、代表的な疾患について作業療法の実際について学ぶ。
到達目標	精神科領域における作業療法の治療目的・役割等について基本的知識を理解することで、各疾患に対する作業療法を考える基礎を身に付ける。
学生への要望	精神医学や臨床心理学、精神機能評価学等で学んだ面接の構造や精神障害に関する知識の復習を行い臨んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	人と作業活動、精神の病と障害	渡邊正之
第 2 回	講義	精神科領域における作業療法の目的と役割	渡邊正之
第 3 回	講義	精神科領域における治療構造①	渡邊正之
第 4 回	講義	精神科領域における治療構造②	渡邊正之
第 5 回	講義	精神科作業療法計画と記録	渡邊正之
第 6 回	講義	精神科作業療法と関連のある理論と技法、システム①	渡邊正之
第 7 回	講義	精神科作業療法と関連のある理論と技法、システム①	渡邊正之
第 8 回	講義	回復状態に応じた作業療法	渡邊正之
第 9 回	講義	認知症の作業療法①	渡邊正之
第 10 回	講義	認知症の作業療法②	渡邊正之
第 11 回	講義	統合失調症の作業療法①	渡邊正之
第 12 回	講義	統合失調症の作業療法②	渡邊正之
第 13 回	講義	統合失調症の作業療法③	渡邊正之
第 14 回	演習	生活技能訓練 (SST)	渡邊正之
第 15 回		まとめ	渡邊正之

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0 %
------------	----------------------

<教科書および参考書>

教科書	山根 寛 精神障害と作業療法 新版	三輪書店
	朝田 隆・他 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版	中央法規出版.
参考資料	山根 寛 ひとと集団・場 第2版	三輪書店.
	鈴木 丈 SST と心理教育	中央法規.
	香山明美・他 生活を支援する精神障害作業療法 第2版	医歯薬出版.

授業科目	発達障害治療学Ⅰ					
担当者	久保 結花		所 属	長崎大学 子どもの心の医療・教育センター		
実務経験者の概要	実務経験(有) 発達障害児の療育機関で 6 年間、医療機関で 1 年間の臨床経験がある。現在は、地域の健診や巡回相談、長崎大学子どもの心の医療・教育センターにて学校等への訪問支援を中心に行っている。					
学科名	作業療法学	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	2 0 時間	

<内 容>

授業の概要	運動面、認知面、行動面などの発達上の障害を持つ子どもの特性と彼らに対して必要な支援についてテキスト、講義資料をもとに講義、グループワークを実施。講義する。 基本的には対面実施ですが、新型コロナウイルス感染状況によってはオンライン講義に変更があります。講義の進捗によって内容は変更することがあります。
到達目標	発達障害児に対する知識を習得し、作業療法についても説明できるようになる。
学生への要望	発達障害児に対する作業療法支援は非常にニーズが高く、今後更に重要になっていきます。発達障害の理解は、その他の障害の理解にもつながりますので、発達障害領域に進まない人も発達障害治療学を深く学んで欲しいと思います。主体的に参加し、疑問点などは講義内で解消できるように努めてください。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	障害のある子どもへの支援	久保 結花
第2回	講義	発達障害領域における作業療法士の役割	久保 結花
第3回	講義	筋ジストロフィー症に対する評価と支援	久保 結花
第4回	講義	知的能力障害の特性、評価と支援	久保 結花
第5回	講義	自閉スペクトラム症の特性、評価と支援	久保 結花
第6回	講義	注意欠如・多動症の特性、評価と支援	久保 結花
第7回	講義	限局性学習症の特性、評価と支援	久保 結花
第8回	講義	発達性協調運動症の特性、評価と支援	久保 結花
第9回	講義	その他の問題（場面緘黙、被虐待など）	久保 結花
第10回	講義	発達障害領域の国家試験問題、まとめ	久保 結花

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 50 % 講義への参加、主体的な取り組み 50 %
------------	-----------------------------------

<教科書および参考書>

教科書	長崎 重信 ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学第3版 メジカルビュー社
参考書	小西 紀一他 子どもの能力から考える発達障害領域の作業療法アプローチ メジカルビュー社 改訂第2版 加藤 寿宏他 エビデンスでひもとく発達障害作業療法—神経発達症の理解と支援—

授業科目	高次脳機能障害治療学					
担当者	牧山 美穂		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	高次脳機能障害の基礎知識を整理しつつ、その全容を把握する。また、障害別評価およびアプローチについて学び、社会生活までおよぶ高次脳機能障害の全体像を環境とともに理解する能力を養う。
到達目標	高次脳機能障害の障害像と作業療法アプローチの原則を理解できる。
学生への要望	高次脳機能障害を有する人々への支援を意識して、知識・技術を積極的に習得してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	総論 高次脳機能障害、脳の機能の特徴	牧山 美穂
第 2 回	講義	総論 高次脳機能障害に対する評価と作業療法介入	牧山 美穂
第 3 回	講義	各論 意識・感情・知能の評価①	牧山 美穂
第 4 回	演習	各論 意識・感情・知能の評価②	牧山 美穂
第 5 回	講義	各論 注意・記憶障害の評価	牧山 美穂
第 6 回	演習	各論 注意・記憶障害への作業療法介入	牧山 美穂
第 7 回	講義	各論 言語機能の評価	牧山 美穂
第 8 回	講義	各論 失語への作業療法介入	牧山 美穂
第 9 回	講義	各論 失認の評価①	牧山 美穂
第 1 0 回	講義	各論 失認の評価②	牧山 美穂
第 1 1 回	演習	各論 失認への作業療法介入	牧山 美穂
第 1 2 回	講義	各論 失行の評価	牧山 美穂
第 1 3 回	講義	各論 前頭葉障害の評価	牧山 美穂
第 1 4 回	講義	各論 失行・前頭葉障害への作業療法介入	牧山 美穂
第 1 5 回	講義	まとめ	牧山 美穂

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 95% レポート課題 5%
------------	--------------------

<教科書および参考書>

教科書	石合純夫 高次脳機能障害第 3 版	医歯薬出版
参考資料	CR 別冊 高次脳機能障害のリハビリテーション	医歯薬出版

授業科目	日常生活活動Ⅲ					
担当者	荒木 一博		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験（有） 身体障害領域の医療機関、介護老人保健施設で作業療法士として従事					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	疾患ごとに障害の特徴に合わせた ADL（評価や訓練、指導法）を演習を交えて学び、関連する国家試験問題にも触れる。
到達目標	疾患別の ADL の特徴を理解し、評価や訓練、指導法について学修する。
学生への要望	・ 事前に対象となる疾患の病態や特徴について確認しておいてもらいたい。 ・ 実習室での授業時はユニフォームを着用し、身なりを整えておくこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（片麻痺①）	荒木一博
第 2 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（片麻痺②）	荒木一博
第 3 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（パーキンソン病）	荒木一博
第 4 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（脳幹障害）	荒木一博
第 5 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（脊髄損傷①）	荒木一博
第 6 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（脊髄損傷②）	荒木一博
第 7 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（筋ジストロフィー）	荒木一博
第 8 回	講義	中枢神経・神経筋疾患（筋萎縮性側索硬化症）	荒木一博
第 9 回	講義	呼吸・循環障害（呼吸器障害）	荒木一博
第 1 0 回	講義	呼吸・循環障害（循環器障害）	荒木一博
第 1 1 回	講義	骨・関節障害（関節リウマチ）	荒木一博
第 1 2 回	講義	骨・関節障害（骨・関節形態障害、慢性腰痛症）	荒木一博
第 1 3 回	講義	高齢期障害	荒木一博
第 1 4 回	講義	その他の障害	荒木一博
第 1 5 回	講義	まとめ	荒木一博

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 % レポート課題 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	伊藤利之 新版 日常生活活動（ADL）第 2 版	医歯薬出版
参考資料	長崎重信 OT 学コ ールト マスターテキスト 日常生活活動（ADL） 橋元 隆 日常生活活動（ADL）第 2 版	ジ ン カルビ ュー社 神稜文庫

授業科目	地域作業療法学					
担当者	牧山 美穂		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	2 単位	
		開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	地域リハビリテーションの捉え方や各種制度、具体的な実践方法について知識を深めていく。講義とグループワーク形式にて授業を進め、作業療法の地域での役割を考察する。
到達目標	地域で活用する各種の社会資源を理解し、マネジメントの方法を説明できる。
学生への要望	教科書を必ず読み、復習をすること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	地域リハビリテーションの歴史と概要	牧山 美穂
第 2 回	講義	地域リハビリテーションに携わる職種や社会資源①	牧山 美穂
第 3 回	講義	地域リハビリテーションに携わる職種や社会資源②	牧山 美穂
第 4 回	演習	地域リハビリテーションの流れ (医療、福祉)	牧山 美穂
第 5 回	講義	地域リハビリテーションの流れ (保健)	牧山 美穂
第 6 回	演習	地域リハビリテーションと介護保険①	牧山 美穂
第 7 回	講義	地域リハビリテーションと介護保険②	牧山 美穂
第 8 回	講義	地域リハビリテーションと障害者総合支援法	牧山 美穂
第 9 回	講義	生活障害の捉え方	牧山 美穂
第 1 0 回	講義	ケアマネジメント	牧山 美穂
第 1 1 回	演習	事例検討①	牧山 美穂
第 1 2 回	講義	事例検討②	牧山 美穂
第 1 3 回	講義	事例検討③	牧山 美穂
第 1 4 回	講義	終末期における地域リハビリテーション	牧山 美穂
第 1 5 回	講義	まとめ	牧山 美穂

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 % レポート課題 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	大田仁史 地域リハビリテーション論 ver6 三輪書店
参考資料	

作業療法学科 2 年生 後期

授業科目	画像診断学					
担当者	筒井 伸 工藤 崇 林 靖之		所 属	長崎大学病院 長崎大学原爆後障害医療研究所 長崎原爆病院		
実務経験者の概要	実務経験(有) 筒井 伸：長崎大学病院放射線科 助教 工藤 崇：長崎大学原爆後障害医療研究所 アイソトープ診断治療学研究分野（原研放射） 教授 林 靖之：長崎原爆病院放射線治療科 部長					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	放射線診断学を中心に放射線治療学、核医学を含めて放射線医学全般にわたって、わかりやすく説明します。
到達目標	放射線医学について幅広い知識を習得し、説明することができるようになる。
学生への要望	特になし

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	放射線医学とは	筒井 伸
第 2 回	講義	放射線の種類と性質	筒井 伸
第 3 回	講義	放射線の人体への影響	工藤 崇
第 4 回	講義	放射線診断	筒井 伸
第 5 回	講義	インターベンショナルラジオロジー	筒井 伸
第 6 回	講義	放射線治療	林 靖之
第 7 回	講義	核医学診断	工藤 崇
第 8 回	講義	まとめ	

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 % レポート課題 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	青木 学 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院
参考資料	

授業科目	臨床医学Ⅱ					
担当者	中畑泰和 兒玉幸修・中村裕一郎		所 属	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 長崎大学病院		
実務経験者の概要	実務経験(有)					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	医療従事者として、専門領域以外の臨床医学について幅広い知識と教養を身につけるために、必須専門基礎科目に含まれない他の臨床医学分野について学ぶ。
到達目標	栄養学や薬理学、泌尿器領域の知識を習得して、ある程度説明できるようになる。
学生への要望	特になし

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	栄養学 1	中畑泰和
第 2 回	講義	栄養学 2	中畑泰和
第 3 回	講義	栄養学 3	中畑泰和
第 4 回	講義	薬理学領域 1	兒玉幸修
第 5 回	講義	薬理学領域 2	兒玉幸修
第 6 回	講義	薬理学領域 3	兒玉幸修
第 7 回	講義	腎・泌尿器領域 1	中村裕一郎
第 8 回	講義	腎・泌尿器領域 2	中村裕一郎
第 9 回	講義	腎・泌尿器領域 3	中村裕一郎
第 10 回		まとめ	中畑・兒玉・中村

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	内山靖・藤井浩美・立石雅子 編 リハベージック 生化学・栄養学 医歯薬出版
参考資料	

授業科目	作業療法管理学Ⅰ					
担当者	牧山 美穂		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を 持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	作業療法の現場では、人材育成、医療安全管理、経営管理などの必要性が高まっている。組織や業務の管理運営に関して学ぶ科目である。
到達目標	組織の中の作業療法、医療における管理運営を説明できる。 作業療法の職域や職業倫理を理解し作業療法を取り巻く諸制度を知る。
学生への要望	教科書を必ず読み、復習をすること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	作業療法とマネジメント	牧山美穂
第 2 回	講義	組織と作業療法	牧山美穂
第 3 回	講義	情報のマネジメント、医療サービスのマネジメント	牧山美穂
第 4 回	講義	医療安全のマネジメント	牧山美穂
第 5 回	講義	作業療法業務のマネジメント	牧山美穂
第 6 回	講義	作業療法の役割と職域、職業倫理	牧山美穂
第 7 回	講義	作業療法を取り巻く諸制度	牧山美穂
第 8 回	講義	まとめ	牧山美穂

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	大庭潤平	作業療法管理学入門	医歯薬出版
参考資料			

授業科目	義肢装具学					
担当者	福島浩満		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) 急性期クリニックと回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。主に脳血管疾患と整形疾患患者への評価・治療の経験をもとに講義を実施する。					
学科名	作業療法学科	学 年	2	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	義手は切断における義手の名称及び適応・チェックアウトについて解説する。装具は末梢神経損傷・リウマチ等におけるスプリントの名称及び適応について学び、カックアップスプリントの作製を体験する。適宜国家試験問題を提示し、解説する。
到達目標	義手、およびスプリントの構成、使用方法、適応について理解する。
学生への要望	義肢装具の基礎知識をしっかりと身につけ、的確な装具の選択と製作が可能になるように身に付けてほしい。また国家試験問題にも慣れ、必要な知識を吸収して欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	義肢装具学の概要	福島浩満
第 2 回	講義	上腕義手と前腕義手 基本構造と適応	福島浩満
第 3 回	講義	筋電義手の基本	福島浩満
第 4 回	講義	上肢装具/スプリント 基本構造と適応①	福島浩満
第 5 回	講義	上肢装具/スプリント 基本構造と適応②	福島浩満
第 6 回	講義	スプリント製作概要	福島浩満
第 7 回	講義	スプリント製作①	福島浩満
第 8 回	講義	スプリント製作②	福島浩満
第 9 回	演習	スプリント製作③	福島浩満
第 10 回	演習	まとめ	福島浩満

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	長崎重信 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学	メジカルビュー社
参考資料	古川 宏 作業療法学全書第9巻 義肢装具学	協同医書出版

授業科目	基礎作業学Ⅲ					
担当者	牧山 美穂		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	集団活動を利用した作業療法の治療・援助の在り方を学ぶ。
到達目標	作業療法の場面に必要な集団活動について、企画力と運営力を身に付ける。
学生への要望	集団活動の実施とともに、集団への関わり方や観察力を養うように取り組むこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	集団活動の基礎知識、アダプテーションと段階付け、ガイダンス方法	牧山美穂
第 2 回	講義	集団活動のプログラム立案、構成企画、管理の方法、評価の視点	牧山美穂
第 3 回	講義	集団活動の企画と準備、デモンストレーション①	牧山美穂
第 4 回	講義	集団活動の企画と準備、デモンストレーション②	牧山美穂
第 5 回	演習	集団活動の運営演習①音楽	牧山美穂
第 6 回	演習	集団活動の運営演習②創作活動・レクリエーション	牧山美穂
第 7 回	演習	集団活動の運営演習③料理	牧山美穂
第 8 回	講義	演習の振り返り（効果判定、評価、観察、段階付け）、まとめ	牧山美穂

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 95% 授業(演習)態度 5%
------------	----------------------

<教科書および参考書>

教科書	なし
参考資料	

授業科目	身体障害治療学Ⅲ					
担当者	久毛 希、他		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) 回復期リハビリテーション病院、介護老人保健施設にて作業療法士として臨床を経験。主に中枢疾患、高齢期疾患のリハビリテーションを担当する。回復期、維持期の実務経験から各疾患の特性や作業療法について幅広い視野での講義を展開する。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	作業療法の対象となる身体障害の特徴を理解し、日常生活活動の低下などの生活障害に対し、障害特性に応じた実践的な知識、技術を学ぶ。
到達目標	各疾患の特性や予後、生活障害の特性について説明・模擬実践できる。
学生への要望	臨床に直結する科目であるため、疾患の知識はもちろんリスク管理を含めた予習復習を怠らないようにしてほしい。受け身で学習するのではなく、常に疑問を持ち自発的に取り組んで欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	骨関節疾患の作業療法①(熱傷)	荒木
第 2 回	講義	骨関節疾患の作業療法②(リウマチ)	久毛
第 3 回	講義	脊髄損傷の作業療法①	久毛
第 4 回	講義	脊髄損傷の作業療法②	久毛
第 5 回	講義	神経変性疾患の作業療法①	久毛
第 6 回	講義	神経変性疾患の作業療法②	久毛
第 7 回	講義	神経筋疾患の作業療法	荒木
第 8 回	演習	事例検討①	荒木・久毛
第 9 回	演習	事例検討②	荒木・久毛
第 10 回		まとめ	荒木・久毛

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0 %
------------	----------------------

<教科書および参考書>

教科書	山口 昇 編集 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第 3 版 小林隆司 身体障害作業療法学 1 骨関節・神経疾患編 羊土社 医療情報科学研究所 病気がみえる 〈vol.11〉 運動器・整形外科 メディックメディア
参考資料	長崎重信 監修・編集 作業療法学 ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 第 2 版 医療情報科学研究所 病気がみえる 〈vol.7〉 脳・神経 メディックメディア

授業科目	精神障害治療学Ⅱ					
担当者	渡邊 正之		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有)・無) 精神分野の病院にて作業療法を行い、主に統合失調症・うつ病・認知症・神経症性障害のリハビリテーションを担当していた。臨床での経験や実務内容疾患の特性などを講義で話していきたい。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 学年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	精神障害の各疾患における作業療法の実際について学ぶ。また、疾患別に目的や種目選択など具体的に説明していきたい。
到達目標	疾患の全体像を把握し、疾患特性を理解し作業療法の目的を説明できる。
学生への要望	精神医学、臨床心理学など精神障害に関連する科目の復習をしておくこと。毎授業事に小テストを実施する予定です。しっかり復習しておくようにして下さい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	気分障害の作業療法①	渡邊 正之
第 2 回	講義	気分障害の作業療法②	渡邊 正之
第 3 回	講義	気分障害の作業療法③	渡邊 正之
第 4 回	講義	神経症の作業療法	渡邊 正之
第 5 回	講義	摂食障害の作業療法	渡邊 正之
第 6 回	講義	依存症候群の作業療法	渡邊 正之
第 7 回	講義	パーソナリティ障害の作業療法	渡邊 正之
第 8 回	講義	てんかんの作業療法	渡邊 正之
第 9 回	講義	児童の精神障害と作業療法	渡邊 正之
第 1 0 回	講義	振り返り・まとめ	渡邊 正之

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0 %
------------	----------------------

<教科書および参考書>

教科書	朝田隆 他 精神疾患の理解と精神科作業療法 第 3 版	中央法規出版
	山根 寛 精神障害と作業療法 新版	三輪書店
参考資料	香山朋美：生活を支援する精神科作業療法	医歯薬出版
	早坂友成：精神科作業療法の理解と技術	
	長崎重信：作業療法学ゴールドマスターテキスト第 3 版 精神障害作業療法学	メジカルビュー

授業科目	発達障害治療学Ⅱ					
担当者	浦川 由紀子		所 属	みさかえの園総合発達医療福祉センター むつみの家		
実務経験者の概要	実務経験(有) 旧重症心身障害児者施設（医療・福祉）にて、18歳までに障害をもった入所・在宅利用者に対し、作業療法を実施している。これまでの臨床経験をふまえて、発達障害領域の作業療法について講義する。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	2 0 時間	

<内 容>

授業の概要	運動面、認知面、行動面などの発達期に障害を持つこどもと人たちの障害特性と必要な支援について講義、実技などをする。
到達目標	発達障害児に対する知識を習得し、作業療法についても説明できるようになる。
学生への要望	発達期に障害をもったこどもや人たちに対する作業療法支援は非常にニーズが高く、今後さらに重要になっていきます。この分野の障害特性の理解は、その他の障害の理解にもつながりますので、発達障害領域に進まない人も発達障害治療学を深く学んでほしいと思います。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	発達障害領域の作業療法とは	浦川由紀子
第2回	講義	脳性まひ児・者を中心に肢体不自由をもつこどもの特性について	浦川由紀子
第3回	講義	発達期に障害をもったこどもや人とその家族の支援について	浦川由紀子
第4回	講義	正常感覚運動発達について(体験、実技演習)	浦川由紀子
第5回	講義	肢体不自由児者の運動障害の特性について	浦川由紀子
第6回	講義	能力/障害・課題・環境の関連、行動について	浦川由紀子
第7回	講義	口腔機能の発達、摂食機能、摂食訓練について	浦川由紀子
第8回	講義	VTR 症例での評価、目標、治療について グループワーク、発表	浦川由紀子
第9回	講義	施設(旧重症心身障害児者施設)の生活場面の見学	浦川由紀子
第10回	講義	〃 福祉機器、作業療法の場面の見学	浦川由紀子

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 70% 課題 20% 出席態度 10%
------------	--------------------------------

<教科書および参考書>

教科書	今川忠男	脳性まひ児の24時間姿勢ケア	三輪書店
	日本作業療法士協会	作業療法学全書 作業治療学3 発達障害	協同医書出版社
参考資料	今川忠男	発達障害児の新しい療育	三輪書店
	岩崎清隆・他	発達障害の作業療法基礎編第3版	三輪書店
	岩崎清隆・他	発達障害の作業療法応用編第3版	三輪書店

授業科目	高齢期治療学					
担当者	荒木 一博		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有) 身体障害領域の医療機関、介護老人保健施設で作業療法士として従事					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	2 0 時間	

<内 容>

授業の概要	講義や演習を通して、高齢期の生活や特性を理解し、作業療法における評価やアプローチについて学習を進めていく。
到達目標	・ 高齢者の生活や特性を理解するとともに、社会的状況や施策を知る。 ・ 高齢者に対する作業療法を理解し、考えられる力を養う。 ・ 地域の高齢者との関りを通じて、集団活動の運営や支援を学ぶ。
学生への要望	・ 高齢者を取り巻く施策や話題について、日頃から関心を持って情報収集に心がけてほしい。 ・ 演習やグループワークなど主体的に取り組んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	高齢期作業療法の枠組みと対象	荒木一博
第 2 回	講義	日本の高齢化と作業療法	荒木一博
第 3 回	講義	高齢期作業療法の実施形態とその特徴	荒木一博
第 4 回	講義	老化に起因する生活障害、加齢と老化	荒木一博
第 5 回	講義	高齢期に多い症候	荒木一博
第 6 回	講義	評価と目標設定	荒木一博
第 7 回	演習	作業療法の介入	荒木一博
第 8 回	演習	介護者との関り、連携について	荒木一博
第 9 回	演習	事例検討	荒木一博
第 1 0 回	講義	まとめ	荒木一博

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% レポート課題 20%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	浅海奈津美 他 老年期の作業療法 改訂第 3 版	三輪書店
参考資料	小川敬之 認知症の作業療法 第 2 版	医歯薬出版

授業科目	総合学習Ⅰ					
担当者	渡邊正之 他		所 属	長崎医療技術専門学校専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有・無) 作業療法士の精神分野の病院にて作業療法を行い、主に統合失調症・うつ病・認知症・神経症性障害のリハビリテーションを担当していた。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 学年	総単位数	2 単位	
		開講時期	後期	総時間数	60 時間	

<内 容>

授業の概要	文献抄読を通し、新しい知識に触れるとともに、1 学年で学習した研究方法をより理解することに繋げる。国家試験の問題の内容や範囲を理解する。
到達目標	文献抄読の流れを理解し他者に興味のある分野の説明ができる。国家試験の問題に触れ、現在の能力を把握し苦手な分野に気付くことができる。
学生への要望	自ら探求心を持って自発的に取り組んで欲しい。国家試験対策では多数の教科書から答えとなる解説を学んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	オリエンテーション、国家試験対策準備	荒木
第 2 回	講義	実習報告会	荒木・牧山 福島・久毛・渡邊
第 3 回	講義	実習報告会、文献検索	荒木・牧山 福島・久毛・渡邊
第 4 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木
第 5 回	講義	文献検索	荒木・牧山 福島・久毛・渡邊
第 6 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木
第 7 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木
第 8 回	講義	抄録作成	荒木・牧山 福島・久毛・渡邊
第 9 回	講義	模擬テスト(共通 50 問)	荒木
第 1 0 回	講義	抄録作成	荒木・牧山 福島・久毛・渡邊
第 1 1 回	講義	抄録作成	荒木・牧山 福島・久毛・渡邊
第 1 2 回	講義	国家試験対策判別学習	渡邊
第 1 3 回	演習	抄録作成	荒木・牧山 福島・久毛・渡邊
第 1 4 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木
第 1 5 回	講義	抄録作成	荒木・牧山 福島・久毛・渡邊
第 1 6 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木

第 1 7 回	講義	文献発表	荒木・牧山 福島・久毛・渡邊
第 1 8 回	講義	文献発表	荒木・牧山 福島・久毛・渡邊
第 1 9 回	講義	総合学習 I 定期試験	荒木
第 2 0 回	講義	抄録作成	荒木・牧山 福島・久毛・渡邊
第 2 1 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木
第 2 2 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木
第 2 3 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木
第 2 4 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木
第 2 5 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木
第 2 6 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木
第 2 7 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木
第 2 8 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木
第 2 9 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木
第 3 0 回	講義	国家試験対策判別学習	荒木

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 40% レポート課題 60%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	PT・OT 国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学 2022 医歯薬出版 PT・OT 国家試験共通問題 できるもんでたもん一問一答 医学書院
参考資料	第 4 9 回～第 5 8 回 国家試験問題

授業科目	総合治療論Ⅰ					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	評価から全体像の把握までの一連の過程を経験する評価実習に向け、「身体機能評価学」や「精神機能評価学」、「評価学演習」で学んだ知識・技術を基礎に、少人数のグループによる演習などでその内容を再学習する。
到達目標	
学生への要望	復習を必ずすること

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	デイリーノート・実習報告について	久毛
第 2 回	講義	ADL 評価	荒木
第 3 回	講義	動作分析①	久毛
第 4 回	講義	動作分析②	久毛
第 5 回	講義	レクリエーションの企画	荒木
第 6 回	講義	評価検討①	福島・渡邊
第 7 回	講義	評価検討②	久毛・渡邊
第 8 回	講義	評価検討③	久毛・
第 9 回	講義	評価検討④	久毛・
第 1 0 回	講義	症例検討・ICF①	牧山・
第 1 1 回	講義	症例検討・ICF②	荒木・
第 1 2 回	講義	COPM①	渡邊・牧山
第 1 3 回	講義	COPM②	渡邊・牧山
第 1 4 回	講義	脳卒中の作業療法	福島
第 1 5 回	講義	コミュニケーション技能・基本的態度	久毛

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 0 % レポート課題 1 0 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

授業科目	職業関連活動					
担当者	牧山 美穂		所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員		
実務経験者の概要	実務経験(有)					
	リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	2 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	人が職業に就くことを目的として行われるすべての職業関連活動を学ぶ。就労に必要な基礎的な能力を習得するための準備活動、就職のための活動、および就労生活を継続するために必要な活動を含む。
到達目標	職業リハビリテーションにおける作業療法の関わりを理解できる。
学生への要望	職業・就業に関する世の中の動き（ニュース）にも関心を持って授業に臨んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	職業関連活動とは	牧山美穂
第 2 回	講義	障害者と職業①	牧山美穂
第 3 回	講義	障害者と職業②	牧山美穂
第 4 回	講義	職業リハビリテーション、援助過程で行われるサービス	牧山美穂
第 5 回	講義	就労支援における作業療法士の役割①	牧山美穂
第 6 回	講義	就労支援における作業療法士の役割②	牧山美穂
第 7 回	講義	評価と指導の流れ①	牧山美穂
第 8 回	講義	評価と指導の流れ②	牧山美穂
第 9 回	講義	指導の実際	牧山美穂
第 1 0 回	演習	障害者支援施設見学①	牧山美穂
第 1 1 回	演習	障害者支援施設見学②	牧山美穂
第 1 2 回	演習	障害者支援施設見学③	牧山美穂
第 1 3 回	演習	事例検討①	牧山美穂
第 1 4 回	講義	事例検討②	牧山美穂
第 1 5 回	講義	まとめ	牧山美穂

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 95% レポート課題 5%
------------	--------------------

<教科書および参考書>

教科書	平賀 昭信 作業療法全書 職業関連活動 協同医書出版
参考資料	

授業科目	臨床実習Ⅱ					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	作業療法学科	学 年	2 年	総単位数	7 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	作業療法学科 2 年生は、前期までに作業療法評価学に関する関連科目を終え、後期までには作業療法治療学に関する科目を履修し、学内での基本的な知識・技術を概ね修得する。後期の前後に分けて実施される本臨床実習「臨床実習Ⅱ」は評価実習としての位置づけで行われ、臨床実習指導者のもと、見学・模倣・実践体験を通して、作業療法を行う上で必要な評価・治療プログラムの立案および医療人として求められる態度や責任感を持って行動すること。
到達目標	第 1 期の時は、学内にて作業療法の評価方法に関する基本的な知識および技術を学んでおり、第 2 期の時は、作業療法治療学の知識および技術を学んでいる。学生個々の経験値や到達度に応じて、段階的な行動目標を設定することが望まれる。基本的な技術や認知スキルの経験値をできるだけ高め、助言や指導の下に、自力で「実施」できることを増やしていくこと。
学生への要望	臨床での教育は、理学療法士という専門職を目指す学生にとって貴重な経験だが、その場は対象者の方々の協力と先輩である専門職の方々の好意によって提供されていることを認識しておくこと。

<講義計画>

臨床実習オリエンテーション (実習) 1 期：3 週間、2 期：4 週間 行動目標： ①職業人としての習慣・態度・業務理解を深める。 ②処方や指示内容から情報を読み取る経験をする。 ③対象者に即した情報収集を経験する。 ④対象者に即した検査・測定のプロセスを体験する。 ⑤対象者に即したリスク管理を考慮し、検査・測定を体験する。 ⑥収集した情報を分析ができ、対象者の全体像を把握するための心理的過程を経験する。 ⑦可能であれば、対象者に即した目標設定と理学療法プログラムを体験する。 (演習) 課題提出と実習報告会

<評価方法>

成績評価・方法・基準	臨床実習教育者の評価 8 0 % レポート課題 2 0 %
------------	-------------------------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

作業療法学科 3 年生

授業科目	作業療法管理学Ⅱ					
担当者			所 属	長崎医療技術専門学校		
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	作業療法学科	学 年	3 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	医療安全、医療サービス、職業倫理など作業療法の管理運営に関して、臨床場面に求められる事項を学ぶ。
到達目標	職業倫理、医療安全の知識を身につける。
学生への要望	まもなく臨床にて活躍するものとして意識を高く持って臨んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	身体障害領域におけるリスクマネジメント	久毛 希
第 2 回	講義	精神障害領域におけるリスクマネジメント	早野和之
第 3 回	講義	施設基準と診療報酬①	早野和之
第 4 回	講義	施設基準と診療報酬②	福島浩満
第 5 回	講義	作業療法マネジメントと職業倫理①	沖 英一
第 6 回	講義	作業療法マネジメントと職業倫理②	沖 英一
第 7 回	講義	災害リハビリテーション	淡野義長
第 8 回	講義	車椅子の選択とシーティング	淡野義長

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 0 % レポート課題 1 0 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	なし
参考資料	なし

授業科目	総合治療論Ⅱ					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	作業療法学科	学 年		総単位数	単位	
		開講時期		総時間数	時間	

<内 容>

授業の概要	評価から治療までの一連の過程を経験する総合臨床実習に向け、各疾患における評価・治療について学び、その内容をデイリーノートにまとめていく。
到達目標	作業療法における各段階での臨床思考，技術を学ぶ 各疾患における評価方法や治療方法を学ぶ
学生への要望	復習を必ずすること

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	演習	実習報告のまとめ方	福島浩満
第 2 回	演習	OT に必要な動作分析①	福島浩満
第 3 回	演習	OT に必要な動作分析②	福島浩満
第 4 回	演習	精神障害領域における評価の視点と解釈	渡邊正之
第 5 回	演習	物理療法の基礎①	森健次郎
第 6 回	演習	物理療法の基礎②	森健次郎
第 7 回	演習	臨床における SST の活用	渡邊
第 8 回	演習	失語症・運動障害性構音障害（摂食嚥下を含む）①	竹中千尋
第 9 回	演習	失語症・運動障害性構音障害（摂食嚥下を含む）②	竹中千尋
第 1 0 回	演習	発達障害のリハビリテーション①	浦川純二
第 1 1 回	演習	発達障害のリハビリテーション②	浦川純二
第 1 2 回	演習	検査画像の見方①	岡 一
第 1 3 回	演習	検査画像の見方②	岡 一
第 1 4 回	演習	検査画像の見方③	岡 一
第 1 5 回	演習	検査画像の見方④	岡 一
第 1 6 回	演習	手の外科領域の後療法①	田崎和幸
第 1 7 回	演習	手の外科領域の後療法②	田崎和幸
第 1 8 回	演習	脊髄損傷のリハビリテーション①	塚本倫央
第 1 9 回	演習	脊髄損傷のリハビリテーション②	塚本倫央
第 2 0 回	演習	PT・OT のための気道吸引①	
第 2 1 回	演習	PT・OT のための気道吸引②	
第 2 2 回	演習	認知症患者の評価と関わり①	松尾優花
第 2 3 回	演習	認知症患者の評価と関わり②	松尾優花
第 2 4 回	演習	身体障害急性期の OT の実際①	光永 済
第 2 5 回	演習	身体障害急性期の OT の実際②	光永 済

第 2 6 回	演習	身体障害回復期の OT の実際①	生田 敏明
第 2 7 回	演習	身体障害回復期の OT の実際②	本田 秀明
第 2 8 回	演習	精神障害の OT～根拠に基づく作業療法の実践～①	福田健一郎
第 2 9 回	演習	精神障害の OT～根拠に基づく作業療法の実践～②	福田健一郎
第 3 0 回	演習	精神障害の OT～根拠に基づく作業療法の実践～③	福田健一郎
第 3 1 回	演習	精神障害の OT～根拠に基づく作業療法の実践～④	福田健一郎
第 3 2 回	演習	高次脳機能障害における OT の実際①	山田 麻和
第 3 3 回	演習	高次脳機能障害における OT の実際②	山田 麻和

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 0 % レポート課題 1 0 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

授業科目	総合学習Ⅱ					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	作業療法学科	学 年	3 年	総単位数	2 単位	
		開講時期	後期	総時間数	8 0 時間	

<内 容>

授業の概要	国家試験で必要とされる知識について、繰り返し学習する機会を設け、知識の整理と理解を促す。また、模擬試験棟を活用し、より実践的な環境の下で時間配分や集中力の持続など国家試験に向けた準備を構築していく。
到達目標	国家試験合格レベル
学生への要望	国家試験に直結する知識であり、積極的に不足している知識の獲得に努めること。

<講義計画>

病理学	身体障害(発達関連)
生理学	身体障害(高次脳)
脊髄損傷	高齢者の OT
発達障害	身体障害(内部障害)
"臨床医学 (内科,外科)"	ADL 義肢装具学
運動学	身体障害(骨関節障害)
解剖学	身体障害(脳画像、CVA、脳腫瘍)
心電図の診かた	OT 評価
整形外科学	身体障害 (変性疾患)
臨床心理学	精神障害 OT
介護保険・法律関係①	精神障害 OT
介護保険・法律関係②	精神医学

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 % レポート課題 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	PTOT 国家試験必修ポイント 2022 臨床医学	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2022 基礎 OT	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2022 OT 治療学	医歯薬出版
参考資料		

授業科目	総合学習Ⅲ					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	作業療法学科	学 年	3 年	総単位数	2 単位	
		開講時期	後期	総時間数	8 0 時間	

<内 容>

授業の概要	国家試験で必要とされる知識について、繰り返し学習する機会を設け、知識の整理と理解を促す。また、模擬試験棟を活用し、より実践的な環境の下で時間配分や集中力の持続など国家試験に向けた準備を構築していく。
到達目標	国家試験合格レベル
学生への要望	国家試験に直結する知識であり、積極的に不足している知識の獲得に努めること。

<講義計画>

病理学	身体障害(発達関連)
生理学	身体障害(高次脳)
脊髄損傷	高齢者の OT
発達障害	身体障害(内部障害)
"臨床医学 (内科,外科)"	ADL 義肢装具学
運動学	身体障害(骨関節障害)
解剖学	身体障害(脳画像、CVA、脳腫瘍)
心電図の診かた	OT 評価
整形外科学	身体障害 (変性疾患)
臨床心理学	精神障害 OT
介護保険・法律関係①	精神障害 OT
介護保険・法律関係②	精神医学

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 % レポート課題 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	PTOT 国家試験必修ポイント 2022 臨床医学	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2022 基礎 OT	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2022 OT 治療学	医歯薬出版
参考資料		

授業科目	地域リハビリテーション論					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	作業療法学科	学 年	3 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	地域リハビリテーションの実際の展開と理学療法士や作業療法士の活躍を学び理解する。
到達目標	理学療法士や作業療法士の地域リハビリテーションにおける役割を説明できること
学生への要望	講義で学んだことを整理して記録すること

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	介護老人保健施設でのセラピストの役割①	飯野朋彦
第 2 回	講義	介護老人保健施設でのセラピストの役割②	飯野朋彦
第 3 回	講義	訪問リハビリテーションの現状①	城戸よしみ
第 4 回	講義	訪問リハビリテーションの現状②	城戸よしみ
第 5 回	講義	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 概論①	内野保則
第 6 回	講義	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 概論②	内野保則
第 7 回	講義	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 演習①	荒木・牧山・久毛
第 8 回	講義	生活行為向上マネジメント (MTDLP) 演習②	荒木・牧山・久毛
第 9 回	講義	暮らしを良くする作業療法①	山口健一
第 10 回	講義	暮らしを良くする作業療法②	山口健一

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 0 % レポート課題 1 0 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	なし
参考資料	なし

授業科目	臨床実習Ⅲ					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	作業療法学科	学 年	3 年	総単位数	1 4 単位	
		開講時期	前期	総時間数	6 4 0 時間	

<内 容>

授業の概要	臨床実習の意義は、作業療法養成施設で学習した知識と技術・技能および態度を、臨床実習施設での作業療法体験を通して統合することである。 総合実習としての本臨床実習は、作業療法対象者の障害像の把握、治療目的及び治療計画の立案、治療実施並びに治療効果判定について、臨床実習指導者からの助言、指導を受けながら理解を深めるとともに、その体験を通して作業療法業務を理解し、専門職としての適切な態度を養うことを目的とする。臨床実習前後での評価による事前準備や臨床実習による成長度合いを確認する。
到達目標	本臨床実習では「見学」や「模倣」に留まらず、対象者の安全に十分に配慮し、可能な範囲で、臨床実習指導者の監督の下「実施」できることを最も上位の到達レベルとする。また、1期・2期を通して作業療法に求められる知識や技術を幅広く学ぶ機会にする。
学生への要望	臨床での教育は、作業療法士という専門職を目指す学生にとって貴重な経験だが、その場は対象者の方々の協力と先輩である専門職の方々の好意によって提供されていることを認識しておくこと。

<講義計画>

連勝実習オリエンテーション (実習) 1期：8週間、2期：8週間 目標： ①対象者に対する全般的な安全への配慮を学ぶ。 ②作業療法実施上の倫理的・法的責任への理解を深める。 ③適切な作業療法評価を通して対象者の全体像を把握する。 ④問題・課題に対する治療計画を理解する。 ⑤治療目標及び治療計画に基づいた、基本的な作業療法技術を学ぶ。 ⑥治療効果判定や治療計画の修正、フォローアップについて学ぶ。 ⑦その他(施設および作業療法部門の組織・機構・管理・運営の理解、チームワークの重要性の理解など) (演習) 課題提出と実習報告会
--

<評価方法>

成績評価・方法・基準	臨床実習教育者の評価 60% レポート課題 40%
------------	---------------------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

授業科目	臨床実習Ⅳ					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	理学療法学科	学 年	3 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	4 5 時間	

<内 容>

授業の概要	地域に在住し生活をしている障害者、高齢者に対して理学療法・作業療法の知識・技術がどのように活用できるかを、保健医療福祉における実施機関・施設(市町村保健センター、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、医療機関の在宅訪問指導、障害者施設等)での見学実習を通して学ぶ。
到達目標	1. 各事業所の地域活動に参加できる。 2. 職員、対象者に対して適切なコミュニケーションがとれ、訪問に必要な態度を形成する。 3. 各事業所で提供しているサービス内容を把握できる。 4. 各事業所での理学療法士・作業療法士の業務内容と役割を理解できる。 5. 理学療法・作業療法の実施を補助できる。
学生への要望	臨床での教育は、理学療法士・作業療法士という専門職を目指す学生にとって貴重な経験だが、その場は対象者の方々の協力と先輩である専門職の方々の好意によって提供されていることを認識しておくこと。

<講義計画>

実習オリエンテーション (実習) 2 日間 ・ 5 グループに分かれて、1 事業所を体験する。 ・ 各事業所における地域活動に参加する。 ・ 訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションを経験する。 ・ 介護保険サービスにおける目標設定やプログラム立案などを経験する。 ・ 理学療法士や作業療法士の業務を経験する。 (演習) 課題提出と実習報告会

<評価方法>

成績評価・方法・基準	臨床実習教育者の評価 60% レポート課題 40%
------------	---------------------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	